SONY

3-206-603-**03**(1)

デジタル サーベイランス レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HSR-X200

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～8ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたりキャビネットを破損したときは

→ ❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

炎が出たら

→ すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

感電

火災

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

アース線を接続せよ

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

警告 火災 感電

下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

指示

電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

まっすぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。
取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

分解禁止

内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理、別売りのボードの取り付けはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。
内部の調整や設定および点検を行う必要がある場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

指示

本機は日本国内用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

指示

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、電源を切ってください。感電や故障の原因となります。

指示

付属の電源コードを使う

付属の電源コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 壁から5 cm以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんなど)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あおむけや横倒し、逆さまにしない。

禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

禁止

ファンが止まったままの状態で使用しない

ファンが止まると、POWERインジケーターが点滅します。そのまま使用し続けると、内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

禁止

製品の上に乗らない、重い物を載せない

製品の上に乗ったり20kgを超えるモニターを載せると、倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

指示

移動させるときは、電源コード、接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

指示

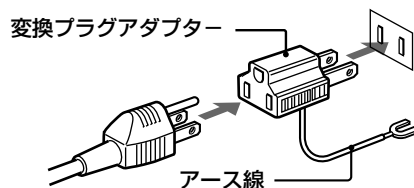
内部の掃除を依頼する

長い間掃除をしないと内部にほこりがたまり、火災や感電の原因となることがあります。内部の掃除については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください（有料）。
特に、湿気の多くなる梅雨の前に掃除をすると、より効果的です。

アース線を接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。次の方法でアースを接続してください。

- **電源コンセントが３極の場合**
  電源コードをそのまま接続すれば、安全アースが接続されます。
- **電源コンセントが２極の場合**
  付属の3極⟷2極変換プラグアダプターを使用し、変換プラグから出ている緑色のアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。

不明な点は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

使用上のご注意

安全上のご注意

電源

- 本機は100V AC、50/60Hz電源で使用してください。
- 動作可能電圧、消費電力などを記載した機銘板は、本機の後面にあります。
- 電源コードは壁のコンセントにつないでください。電源のつなぎかたについては、「基本接続例」(42ページ)をご覧ください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを壁のコンセントから抜いてください。

取り扱い上のご注意

使用・保管場所

長期間ご愛用いただくため、次のような場所での使用および保管は避けてください。

- 極端に暑いところや寒いところ(使用温度は5 ℃～40 ℃です。)
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具の近く(真夏、窓を閉め切った自動車内では50 ℃を超えることがありますのでご注意ください。)
- 湿気、ほこりの多いところ
- 激しい振動のあるところ
- 強い磁気を発生するものの近く
- 強力な電波を発生するテレビ、ラジオの送信所の近く

通風口をふさがない

- 本機内の温度の上昇を防ぐため、本機の両側面、底面にある通風口をふさがないでください。本機の両側面、後面、上面は、壁や天井から5 cm以上離してください。
- 本機底面の脚は外さないでください。脚を付けた状態で平面に設置することによって、床から1 cmの距離を保つことができます。
- 本機を密閉された箱に入れて使用しないでください。

水平位置で使用してください

- 本機は水平平面上で動作するよう設計されています。
- 傾いた場所に設置しないでください。強い衝撃を与えないでください
- 落としたりして強い衝撃を与えると故障することがあります。

お手入れについて

- お手入れをする前に、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- アルコール、シンナー、ベンジンや殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗料がはげることがあります。

輸送のときは

付属のカートン、または同等品で梱包し、急激な衝撃を与えないようにご注意ください。

セッティングバックアップ機能について

- 本機の底面には時間設定を持続するためのバックアップ用電池(リチウム電池)が装備されています。通常の使いかたでバックアップ用電池は充電されます。
  最低約30時間でフル充電になり、**約30日間は時間設定**が維持されます。

  ご注意

  充電時間が30時間未満ですと、電源を切った場合セッティングは正しく継続されません
- バックアップ用電池(リチウム電池)の交換については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

HDD内蔵機器に対する注意事項

本機には、ハードディスクドライブ (以下HDDと称する) が搭載されています。HDDは精密部品であり、衝撃・振動・静電気・温度・湿度が原因で故障したり、HDD内のデータが破損する恐れがあります。本機を設置・使用するときは、以下の注意事項をよくお読みのうえ、慎重に取り扱ってください。

衝撃・振動を与えない

衝撃・振動が加わるとHDDが故障あるいはHDD内のデータが破壊されるおそれがあります。

- 本機を搬送する場合は、指定の梱包材料で梱包してください。台車などで搬送する場合は、振動の少ない台車を使用してください。過度な衝撃・振動が加わるとHDDが故障するおそれがあります。

- 通電中は本機を移動しないでください。本機をラックから出し入れするときも、必ず電源をOFFにした状態で行ってください。
- ラック内にあるすべてのHDD搭載機器に衝撃を与えないでください。
- 本機をラックから出し入れするとき、ラック内に通電中のHDD搭載機器がある場合は、必ずその機器の電源をOFFにしてください。
- 本機の外装を取り外さないでください。
- 本機を床などに置くときは、本機の底に必ず指定の脚が付いている状態で、静かに降ろしてください。脚が付いていない場合は、脚を取り付けてから置いてください。
- 振動を発生する機器の近くに置かないでください。

電源OFF後30秒間は作業しない

電源をOFFにした後もしばらくの間は、HDD内のディスクは慣性で回転しており、ヘッドは不安定な状態にあります。この期間は、通電中以上に衝撃・振動に弱い状態です。**電源OFF後、最低30秒間は軽い衝撃も与えない**ようにご注意ください。30秒以上経過すれば、（ディスクが静止するので）作業を開始できます。

温度・湿度に関するご注意

適正範囲内の温度(5℃～40℃)・湿度(80%以下)にある場所で、保管・使用してください。

HDDに不良症状が現れた場合

万一、本機のHDDが故障した（不良症状が現れた）と思われる場合でも、本機の取り扱いは、上記と同様に行ってください。不良内容の確認や不良解析を行うまでの損傷の拡大を防ぎます。

内蔵の時計を設定して使用する

内蔵の時計で日時を設定していないと、記録ができません。
時計が設定されていない場合、電源を入れて本機を起動すると、警告メッセージ「日時設定をおこなわないと記録できません！」がモニター画面に表示されます。
時計を設定してから使用してください。

HDDの交換

HDD、ファン、内蔵リチウム電池は消耗品です。常温でのご使用の場合、2～3年を目安に交換してください。ただし、この時間はあくまでも交換の目安であり、部品の寿命を保証するものではありません。交換の際には販売店にご相談ください。

録画内容の補償に関する免責事項

本機の不具合など何らかの原因で記録ができなかった場合、不具合・修理など何らかの原因で記録内容が破損、消滅した場合等、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復、復元、複製等はいたしません。あらかじめご了承ください。

概要

ソニーデジタルサーベイランスレコーダーHSR-X200は、監視カメラからの映像を記録するデジタルビデオレコーダーです。内蔵のハードディスクに記録するため、カセットテープを使用するレコーダーのようにテープの記録時間や耐久性を気にすることなく、高画質での長時間記録・再生が可能です。

本機の特長

大容量HDD採用による長時間記録

容量80GBのハードディスクを標準装備し、長時間の連続記録が可能です。

例：

1入力、1フィールド/秒、画質HYPER：413時間（17.2日）
1入力、1フィールド/秒、画質HIGH：671時間（28日）
1入力、1フィールド/秒、画質LOW：1264時間（52.7日）
4入力、各入力1フィールド/秒、画質HIGH：167時間（7日）

別売りのハードディスクドライブHSBK-X201を使用することによって、増設が可能です。

Motion-JPEG圧縮方式採用による高画質・高解像度の記録・再生

5段階の記録画質を選択可能

HSR-X200では、HYPER（52KB/フィールド）、SUPER（44KB/フィールド）、HIGH（32KB/フィールド）、MID（24KB/フィールド）、LOW（17KB/フィールド）の5段階の記録画質を、目的や必要な記録時間に応じて選択できます。解像度を下げることによって、それぞれ上位の画質より、長時間の記録が可能になります。

高解像度

通常のフィールド記録モードで、720×240ピクセルの高解像度が得られます。
フレーム記録モードを指定すると、720×480ピクセルの、より緻密な静止画像を1フレームずつ記録できます。
フィールド記録/フレーム記録はメニュー操作により切り換えが可能です。

多彩な記録・再生が可能

内蔵HDDを通常記録、アラーム記録、アーカイブの3つの領域に分割して使用できるため、様々な状況に柔軟に対応できます。

- タイマー記録中でもアラーム記録を実行
- 記録を中断することなく再生が可能なプリリバース再生
- 8×10多点アクティビティーセンサーによるアラーム記録
- オーディオ1チャンネルの記録・再生
- ジョグおよびシャトルダイヤルによる変速再生
- 画像の2倍ズーム機能

多様なシステム構成が可能

マルチプレクサーの接続

別売りのマルチプレクサーを接続して使用できます。本機でチャンネル情報のデコード可能なマルチプレクサーでは、特定のチャンネルを指定して使用できます。

ネットワーク対応による遠隔操作

市販のネットワークカードを使用することによって、TCP/IP経由でPC（WEBブラウザー）から本機を操作し、記録・再生や画像の伝送が可能です。

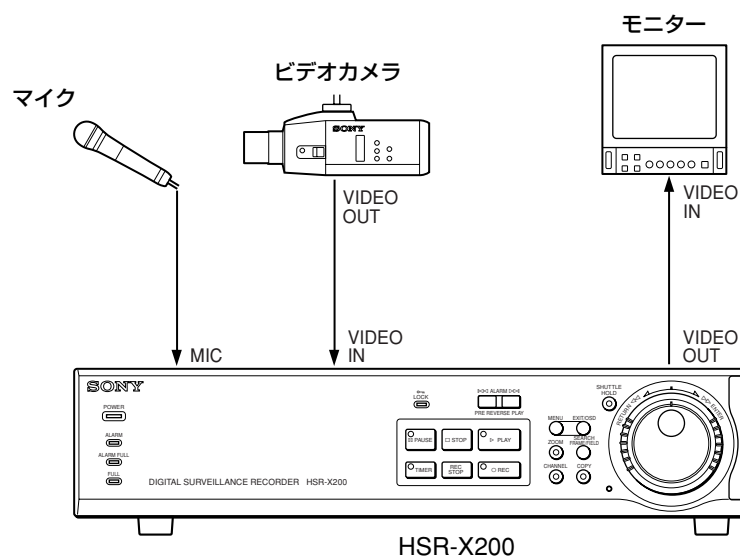
データの保存とバックアップ

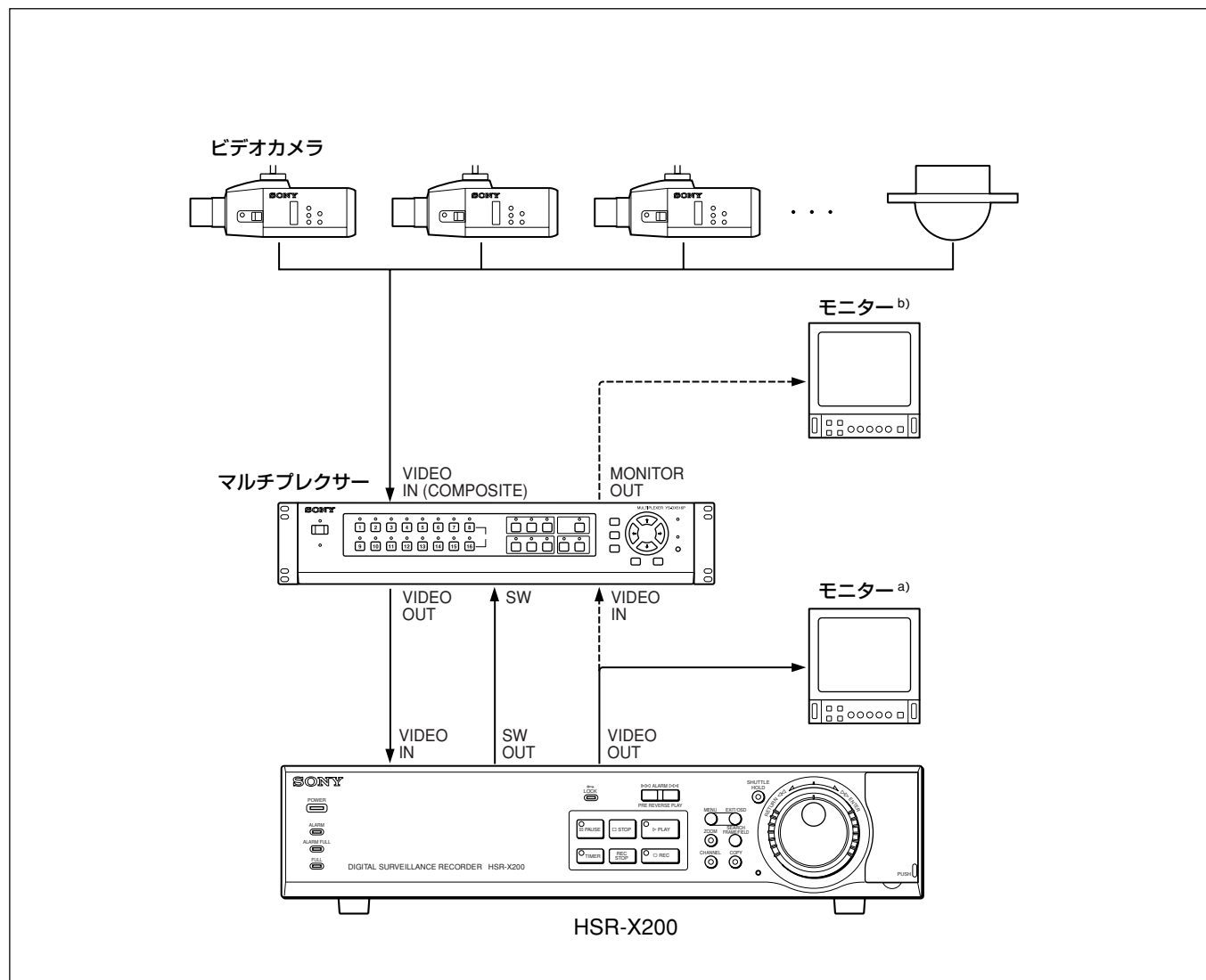
前面と後面のPCカードスロットにより、各種メモリーカードや、指定のCD-Rドライブ、DDSドライブでのデータ保存・バックアップに対応できます。

◆使用できるCD-Rドライブ、DDSドライブについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

システム構成例

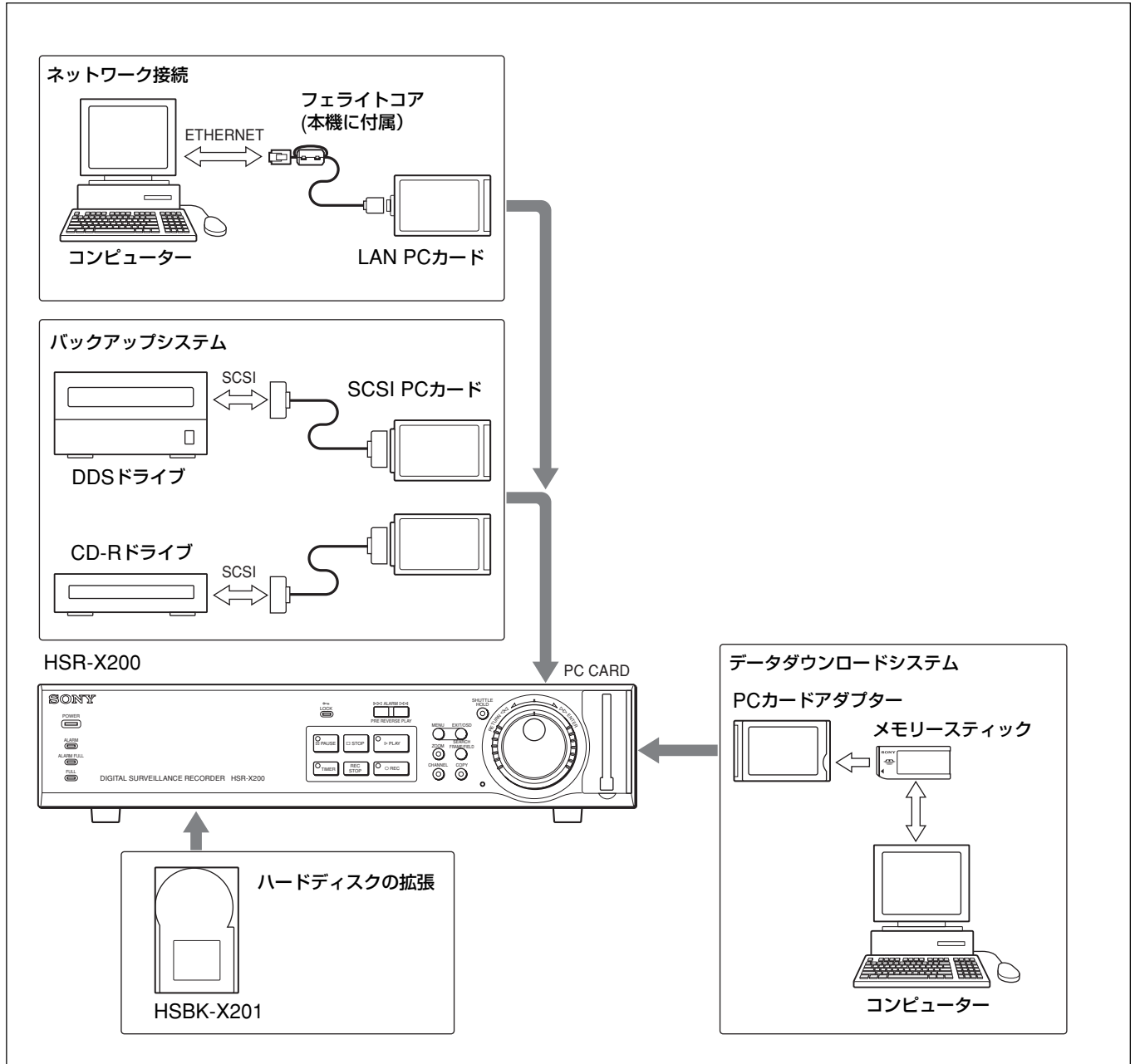
基本シングルカメラシステム

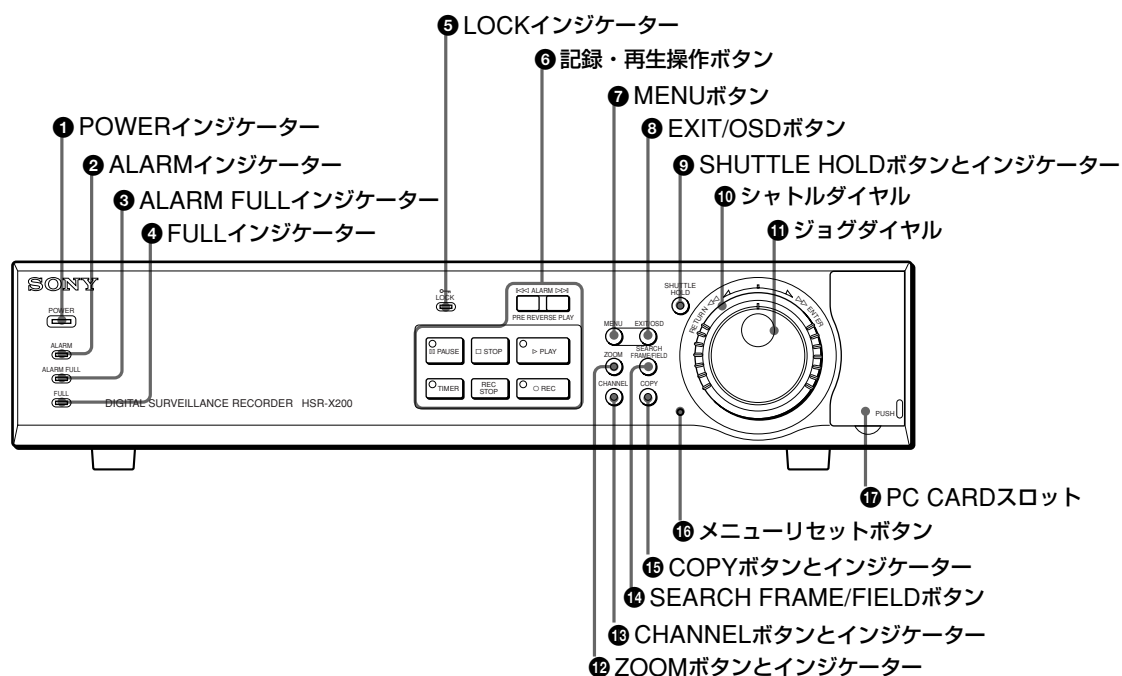
接続したカメラの画像をモニター画面で監視・記録し、記録された画像を再生します。

マルチカメラシステム

マルチプレクサーに接続された複数のカメラの画像を記録・再生します。

a) 記録と再生を同時に行うモニター（ソニー、サンヨー、デディケーテッドマイクロズ、ロボットエレクトロニクス社製のマルチプレクサー使用）：記録しながら再生画像を見ることができます。選択した1チャンネルのみの再生画像をフルスクリーンで表示します。

b) 再生のみを行うモニター（ほとんどのマルチプレクサーに対応）：記録時はライブ画像を、再生時は再生画像を、それぞれフルスクリーンまたはマルチスクリーンモードでモニターできます。

サポートシステム

カメラシステムに加えて、HSR-X200と協力して働く様々な周辺機器を使用することができます。

各部の名称と働き

前面パネル

❶ POWER（電源）インジケーター

本機が通電状態のとき緑に点灯します。通電が遮断されると消灯します。

HDDまたはファンに異常があると赤で点滅します。

ご注意

本機の内部温度を適正に保つため、ファンが本機側面に装備されています。ファンが正しく作動しないと、POWERインジケーターが点滅して異常を知らせます。そのような場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜き、ファンをさえぎるものがないか確認してください。再度電源を入れたとき、まだPOWERインジケーターが点滅していたら、本機の使用を中止して最寄りのソニーサービスステーションまたはお買い上げのソニー特約店までご相談ください。

❷ ALARM（アラーム）インジケーター

アラーム記録実行中は赤で点滅し、プリアラーム記録実行中は赤で点灯します。記録が終わると消灯します。

◆アラーム記録、プリアラーム記録については「アラーム記録」（27ページ）をご覧ください。

❸ ALARM FULL（アラーム記録領域フル）インジケーター

内蔵HDDのアラーム記録領域の残量が設定値（デフォルトは1%）以下になると赤で点滅し、残量が0になると赤で点灯します。

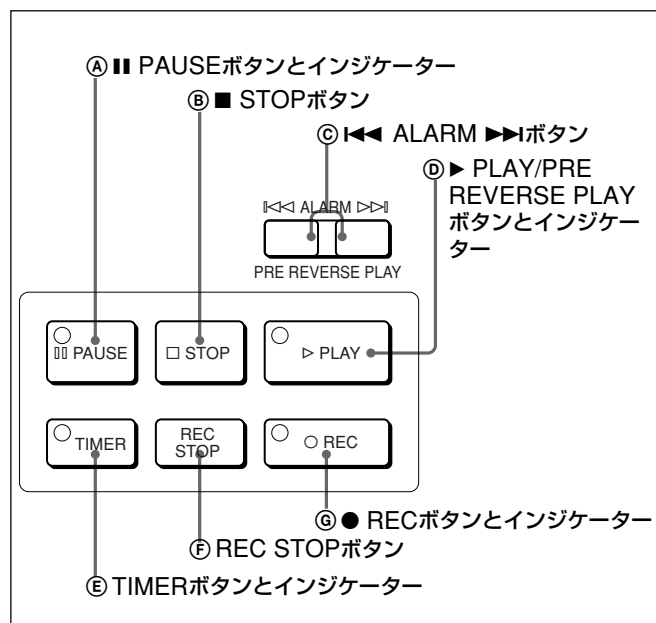
❹ FULL（通常記録領域フル）インジケーター

内蔵HDDの通常記録領域の残量が設定値（デフォルトは1%）以下になると赤で点滅し、残量が0になると赤で点灯します。

❺ LOCK（ロック）インジケーター

セキュリティロックで操作にロックがかけられていると赤で点灯します。インジケーターが点灯しているときに操作ボタンを押すと、インジケーターが点滅し、パスワード入力画面になり、パスワードの入力を要求します。

◆セキュリティロックやパスワードについては「セキュリティロックを設定する」（54ページ）をご覧ください。

❻ 記録・再生操作ボタン

Ⓐ ❚❚ PAUSE（一時停止）ボタンとインジケーター（橙）
再生中に押すと、静止画モードになり、インジケーターが点灯します。
もう一度押すと、通常の再生モードに戻ります。

Ⓑ ■ STOP（再生停止）ボタン
再生（静止画、変速再生を含む）を終了するとき押します。

Ⓒ I◀◀ ALARM ▶▶I（アラームスキップ）ボタン
通常記録領域またはアラーム記録領域に記録された画像を再生中に押すと、ひとつ前または次のアラーム記録イベントの画像にスキップします。
アーカイブ領域に保存された画像を再生しているときに押すと、ひとつ前または次のイベントにスキップします。

Ⓓ ▶ PLAY/PRE REVERSE PLAY（再生/プリリバース再生）ボタンとインジケーター（緑）
停止状態で押すと、インジケーターが点灯し、再生が始まります。
◆詳しくは、「通常の再生」（35ページ）をご覧ください。
記録中に押すと、記録を継続したまま、メニューで指定したプリリバース時間（1〜99分）だけさかのぼった位置から再生することができます。
◆詳しくは、「プリリバース再生ー記録中に再生する」（35ページ）をご覧ください。

Ⓔ TIMER（タイマー）ボタンとインジケーター（赤）
押すとタイマー記録の待機状態になりインジケーターが点灯します。
メニューで設定した記録開始時刻になると記録が始まり、RECボタンのインジケーターが点灯します。
もう一度押すと、待機状態もしくは実行中のタイマー記録が解除されます。
◆詳しくは、「タイマー記録」（30ページ）をご覧ください。

Ⓕ REC STOP（記録停止）ボタン
記録を終了するとき押します。

Ⓖ ● REC（記録）ボタンとインジケーター（赤）
押すとインジケーターが点灯し、記録が始まります。

❼ MENU（メニュー）ボタン
押すとメニューモードに入ります。メニュー操作中は表示されている設定画面から別の設定画面に切り替えることができます。
◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（19ページ）をご覧ください。

❽ EXIT/OSD（メニュー解除/画面表示データ切り替え）ボタン
メニューモードを解除するとき押します。
メニューモード以外のときは、画面表示データ(OSD)の表示切り替えボタンとして働きます。ボタンを押すたびに画面表示データが左下表示/右上表示/右下表示/非表示/左上表示の順に切り替わります。
◆画面表示データについては「画面表示データ」(18ページ）をご覧ください。

❾ SHUTTLE HOLD（シャトルホールド）ボタンとインジケーター（緑）
このボタンを押してインジケーターを点灯させると、シャトルダイヤルによる変速再生の再生方向とスピードをロックすることができます。
もう一度押すと、変速再生開始前のモードに戻ります。
◆詳しくは、「変速再生」（36ページ）をご覧ください。

❿ シャトルダイヤル（外側）
再生モード（PLAYボタンのインジケーターが点灯）または静止画モード（PAUSEボタンのインジケーターが点灯）のときにシャトルダイヤルを回すと、ダイヤルの回転に応じた方向とスピードで再生されます。
◆詳しくは、「変速再生」（36ページ）をご覧ください。
モニター画面に表示されるメニュー画面では、このダイヤルを右に回すことによって選択・設定を確定させます。

⓫ ジョグダイヤル（内側）
再生モード（PLAYボタンのインジケーターが点灯）でジョグダイヤルを回すと、再生スピードを段階的に変更することができます。右回しで速くなり、左回しで遅くなります。
静止画モード（PAUSEボタンのインジケーターが点灯）でジョグダイヤルを回すと、コマ送り再生されます。右に回すと順方向、左に回すと逆方向にコマ送りされます。

◆詳しくは、「変速再生」（36ページ）をご覧ください。

モニター画面に表示されるメニュー画面では、このダイヤルでカーソルの移動や値の設定を行います。

⓬ ZOOM（ズーム）ボタンとインジケーター（緑）
モニター画面に表示されているカメラ画像や再生画像の一部を拡大して表示することができます。
拡大するゾーンはジョグダイヤル/シャトルダイヤルで指定します。ズーム表示されている間は、ZOOMボタンのインジケーターが点灯します。もう一度押すと通常の画像サイズに戻ります。

◆詳しくは「再生画像を拡大する」（37ページ）をご覧ください。

⓭ CHANNEL（チャンネル）ボタンとインジケーター（緑）
本機でチャンネル情報をデコード可能なマルチプレクサーを使用しているときは、このボタンを押すと、チャンネル選択画面に切り替わり、特定のチャンネルを選択して出力させることができます。このモードではCHANNELボタンのインジケーターが点灯します。
もう一度ボタンを押してインジケーターを消灯させると、全チャンネルモードになります。

◆詳しくは、「マルチプレクサーチャンネルを選択する」（37ページ）をご覧ください。

⓮ SEARCH FRAME/FIELD（サーチ・フレーム/フィールド）ボタン
記録モードまたは停止状態でこのボタンを押すと、再生する映像を検索（サーチ）するための画面に切り替わります。
また、フレームモードで記録した画像を静止画モードで再生しているときは、このボタンを押してフレーム表示とフィールド表示を切り替えることができます。

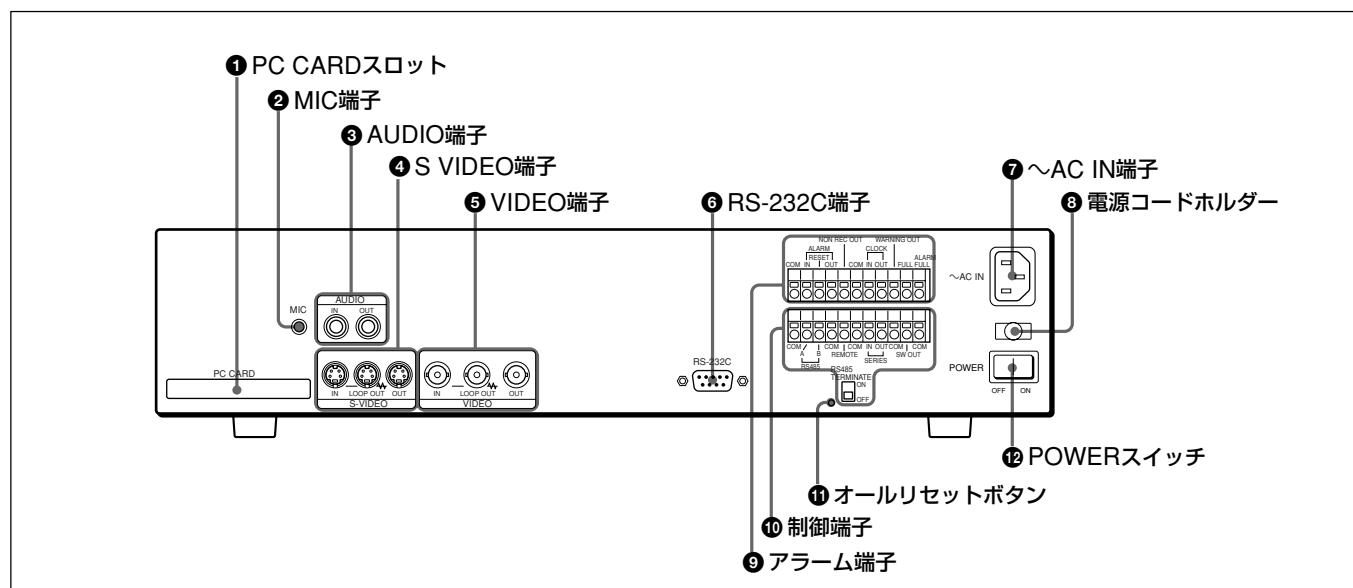
◆詳しくは「再生」（35ページ）をご覧ください。

⓯ COPY（コピー）ボタンとインジケーター（緑）
内蔵HDDのアーカイブ領域や外部の記録媒体（メモリースティックやDDSテープ）にデータをコピーするとき押します。インジケーターが点灯し、コピー操作画面に切り替わります。

◆詳しくは、「データの保存」（32ページ）をご覧ください。

⓰ メニューリセットボタン
このボタンを押すと、現在表示されているメニューの全項目の設定が、工場出荷時のデフォルト状態に戻ります。

⓱ PC CARD（PCカード）スロット
市販のPCカードアダプターを装着することにより、メモリースティックなどへデータをコピーして保存することができるようになります。

後面パネル

❶ PC CARD（PCカード）スロット

Type 2のPCカード用です。市販のSCSI PCカードを装着することによって、CD-RやDDSドライブでのデータバックアップが可能になります。市販のLAN PCカードにより、ネットワークコントロールに対応することもできます。

❷ MIC（マイク）端子（モノラルミニジャック）

マイクを接続します。

❸ AUDIO（音声）端子（ピンジャック）

IN（入力）：音声信号を入力します。

OUT（出力）：モニターなどのAUDIO IN端子に接続します。

❹ S-VIDEO（Sビデオ）端子（Mini DIN 4ピン）

IN（入力）：Y/Cに分離されたS-VIDEO信号を接続します。

LOOP OUT（ループ出力）：IN端子に入力された信号をそのまま出力します。本機の電源がOFFのときも信号が出力されます。

OUT（出力）：Y/Cに分離されたSビデオ信号を出力します。モニターのSビデオ信号入力と接続します。マルチプレクサーを介して映像を出力したいときは、マルチプレクサーのS-VIDEO入力端子に接続します。

❺ VIDEO（映像）端子（BNC型）

IN（入力）：カメラを接続します。マルチプレクサーを使用するときは、マルチプレクサーの映像出力端子に接続します。

LOOP OUT（ループ出力）：IN端子に入力された信号をそのまま出力します。本機の電源がOFFのときも信号が出力されます。

OUT（出力）：モニターのVIDEO IN端子に接続します。コンポジットビデオ信号を出力します。出力されるビデオ信号には、キャラクター信号がスーパーインポーズされます。マルチプレクサーを介して映像を出力したいときは、マルチプレクサーのビデオ入力端子に接続します。

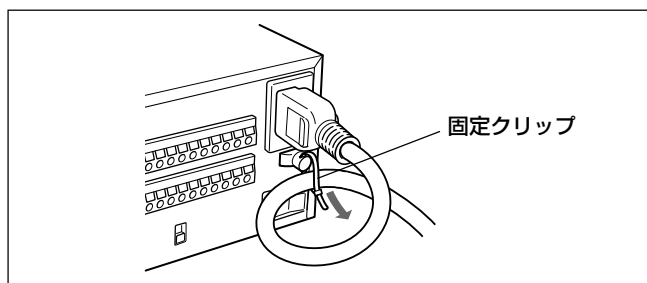
❻ RS-232C端子（D-sub 9ピン）

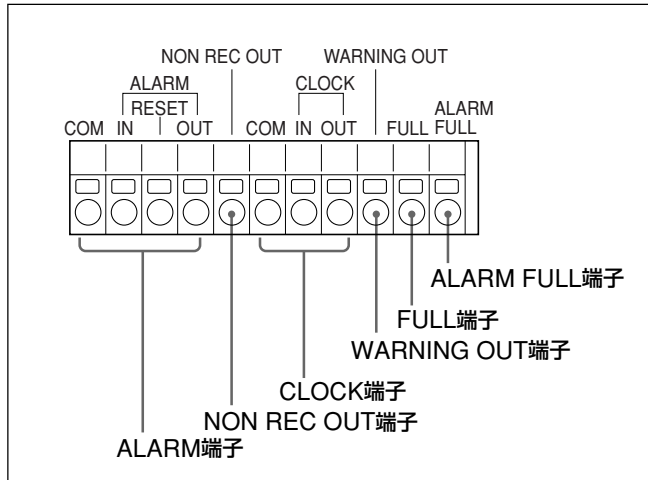
コンピューターなどの外部コントローラーを接続できます。

❼ ～AC IN（AC電源入力）端子

付属の電源コードでAC電源に接続します。

❽ 電源コードホルダー

付属の固定クリップを使って、図のように電源コードを固定します。

❾ アラーム端子

各種アラーム信号や制御信号の入出力用です。COM端子はそれぞれのGND用です。

ALARM端子

アラーム記録のトリガーとなる信号を入出力します。

IN：アラーム信号入力（無電圧メイク接点）

RESET：アラームリセット入力（無電圧メイク接点）

OUT：センサーアラーム信号出力（DC 5V/5.7k Ω）。本機に内蔵のアクティビティーディテクションセンサーが働いたときや、外部アラームを検出すると、出力レベルが0Vになります。

NON REC OUT端子（DC 5V/5.7kΩ）

録画が中断すると、出力レベルが0Vになります。

CLOCK端子

外部スイッチなどを使って本機の時計を合わせたり、本機に接続した機器の時計を本機の時計に合わせて設定することができます。

IN：時計合わせ入力（無電圧メイク接点）。外部スイッチなどを接続します。

OUT：時計合わせ出力（DC 5V/5.7k Ω）。メニューで設定した時刻になると、出力レベルが0Vになります。

WARNING OUT端子（DC 5V/5.7kΩ）

HDDに異常があると、出力レベルが0Vになります。

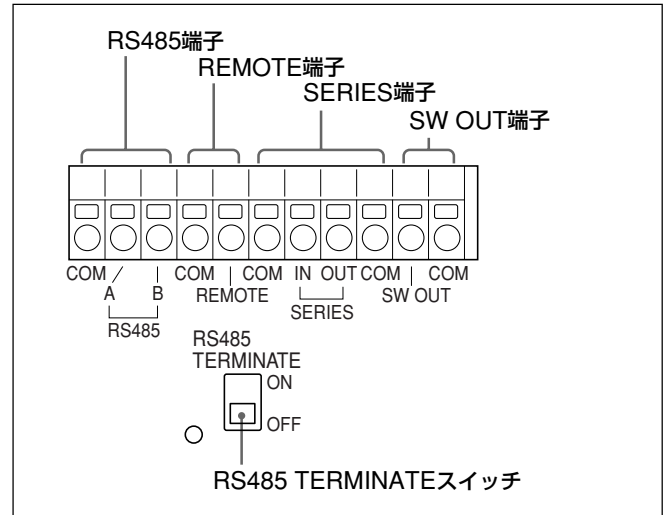
FULL端子（DC 5V/5.7kΩ）

内蔵HDDの通常記録領域の残量がメニューで設定した値より少なくなると、出力レベルが0Vになります。

ALARM FULL端子（DC 5V/5.7kΩ）

内蔵HDDのアラーム記録領域の残量がメニューで設定した値より少なくなると、出力レベルが0Vになります。

❿ 制御端子

各種アラーム信号や制御信号の入出力用です。COM端子はそれぞれのGND用です。

RS485端子

RS-485インターフェース用です。ツイストペアーケーブルを使用してコントローラーのA、B、COMピンに接続します。

◆接続については「リモートコントロールの接続と設定」（47ページ）をご覧ください。

REMOTE端子（抵抗ラダー式）

リモートコントロール用です。

◆接続については「リモートコントロールの接続と設定」（47ページ）をご覧ください。

SERIES端子

映像・音声信号を複数のHSR-X200でシリーズ接続するとき、制御信号をシリーズ接続するための端子です。

IN：前のHSR-X200のOUT端子に接続します。

OUT：次のHSR-X200のIN端子に接続します。

SW OUT端子（DC 5V/4.8kΩ）

パルス信号を出力します。マルチプレクサーのSW端子に接続することによって、入力画像の切り替えタイミングを制御することができます。

RS485 TERMINATEスイッチ

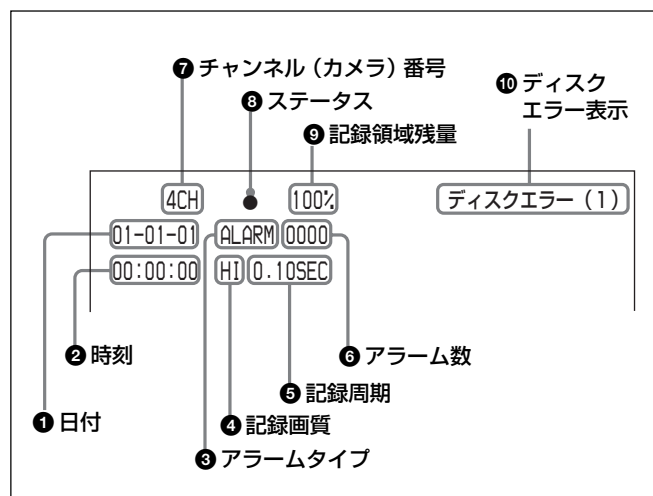
RS-485終端用スイッチです。RS485端子で複数のHSR-X200をシリーズ接続するとき、最後のHSR-X200のRS485 TERMINATEスイッチをONにします。

⓫ オールリセットボタン

CPUをリセットします。

⓬ POWER（電源）スイッチ

本機の電源を入/切します。

画面表示データ

前面パネルのEXIT/OSDボタンを押して、表示位置を切り替えたり、非表示にすることも可能です。

❶～❻の表示は、メインメニュー2の「データ表示/無信号検出設定」で個別に入/切することもできます。

❶ 日付／❷ 時刻

記録および停止状態（カメラ入力画像モニター）時は、現在の日付および時刻を表示します。

再生中は、記録時の日付および時刻を表示します。

❸ アラームタイプ

現在のアラーム記録のタイプを表示します。

ALARM： 通常のアラーム記録

PRE-ALARM： プリアラーム記録

❹ 記録画質/❺ 記録周期

記録モードおよび停止状態では、通常記録に設定されている記録画質と記録周期を表示します。再生中は、記録時の記録画質と記録周期を表示します。

❻ アラーム数

アラーム記録が行われると、その件数を表示します。9999件を超えると1に戻ります。

❼ チャンネル（カメラ）番号

チャンネル情報を本機でデコードできるマルチプレクサーを接続したときは、本機で選択したカメラ番号を表示します。

❽ ステータス

現在の動作モードを表示します。

●： 記録

▶： 再生

❚❚： 静止画

▶▶： 順方向変速再生

◀◀： 逆方向変速再生

❾ 記録領域残量

「記録設定」メニューで記録領域の上書き記録が「切」に設定されているときは、記録領域の残量（%）を表示します。

❿ ディスクエラー表示

ハードディスクにエラーが発生すると表示されます。

ディスクエラー: エラーが発生したが、2台搭載されているハードディスクのうちどちらに発生したか判別できない。

ディスクエラー (1): マスター側ディスク（DISK1 (MASTER)）にエラーが発生した。

ディスクエラー (2): スレーブ側ディスク（DISK2 (SLAVE)）にエラーが発生した。

ディスクエラー (1–>2): DISK1、DISK2の順にエラーが発生した。

ディスクエラー (2–>1): DISK2、DISK1の順にエラーが発生した。

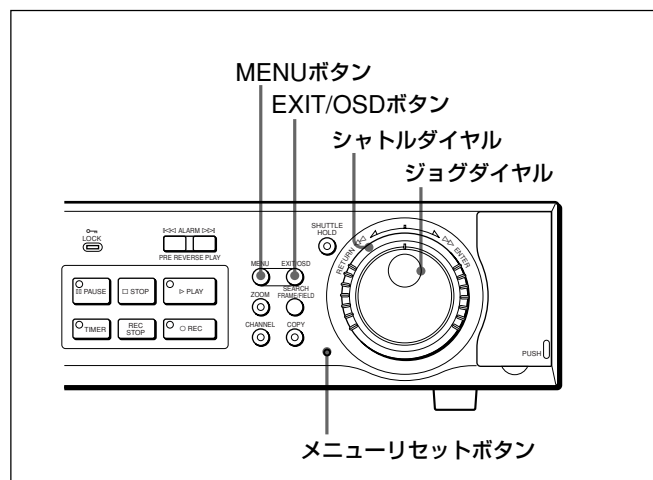
OSD基本操作

本機では、モニター画面に表示されるメニュー画面を使用して、各種の設定を行います。

◆メニューの階層は、21ページをご覧ください。

メニュー操作

ここではOSD（On-Screen Display）基本操作を、メニュー項目の設定を例にして説明します。

メニュー操作に使用するボタン/ダイヤル

SEARCHボタン、COPYボタンで表示されるメニューもあります。

◆これらのメニューについては、38ページおよび32ページをご覧ください。

メニュー操作を開始するには

MENUボタンを押します。

モニター画面にメインメニュー1が表示されます。

一番上の行が反転表示されます。

メインメニュー2に切り替えるには

もう一度MENUボタンを押します。

カーソル（反転表示）を移動するには

ジョグダイヤルを回します。右に回すと下へ、左に回すと上に移動します。

メニュー項目を選択するには

ジョグダイヤルでカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回します。

選択したメニュー項目の設定画面に切り替わります。

別のメニュー項目の設定画面に移動するには

メニュー項目の設定画面でMENUボタンを押します。

次のメニュー項目の設定画面に切り替わります。

例えば、「1.時刻設定」の設定画面でMENUボタンを押すと、「2.映像入力設定／プリリバース」の設定画面に切り替わります。

設定画面からメインメニュー1または2に戻るには

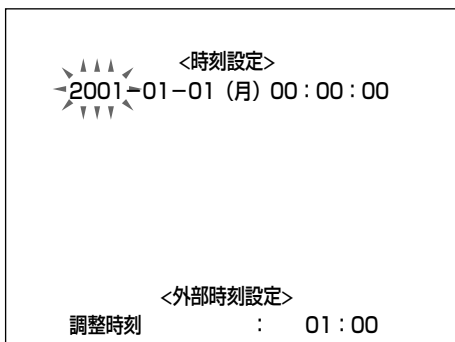
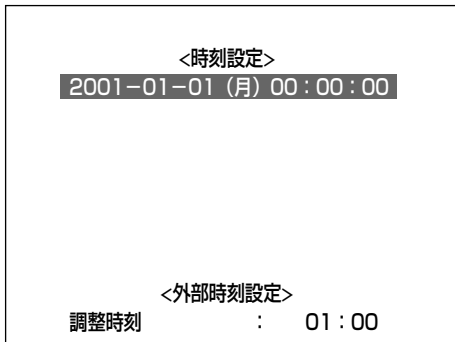
シャトルダイヤルを左に回します。

設定するには

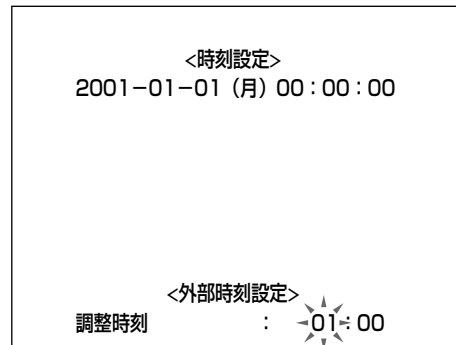
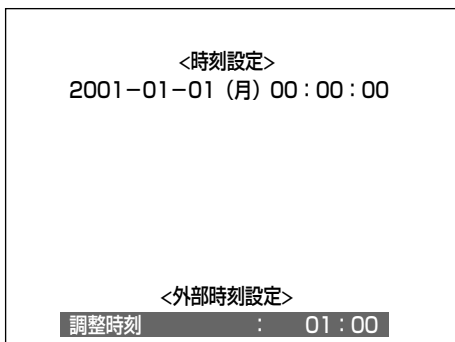
1 反転表示されている項目を設定するときは、そのままシャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。(設定できる欄が1行に複数ある場合は、最初の欄が点滅します。)

<時刻設定>
2001−01−01 (月) 00 : 00 : 00

<外部時刻設定>
調整時刻　:　01 : 00

または、ジョグダイヤルを回して設定したい項目を反転表示させて、シャトルダイヤルを右に回す。

<時刻設定>
2001−01−01 (月) 00 : 00 : 00

<外部時刻設定>
調整時刻　:　01 : 00

2 ジョグダイヤルを回して、点滅している行または欄の設定を変更する。

ジョグダイヤルを回すと、点滅している行または欄に設定できる値が順番に表示されます。

3 希望の値が表示されたら、シャトルダイヤルを右に回す。

設定できる欄が1行に複数ある場合は、次の欄が点滅します。それぞれ順番に同じ方法で設定します(シャトルダイヤルを左に回すと左または上に戻ります)。

1行の設定が終わると次の行にカーソルが移動します。

メニューの設定をすべてデフォルトに戻すには

穴にピンなどを差し込み、メニューリセットボタンを押します。モニターに表示されているメニュー項目の設定がすべて工場出荷時の状態に戻ります。

MENUモードから抜けるには

EXIT/OSDボタンを押します。

メニュー設定の保存

メニューモードで設定した値は、データとしてメモリースティックに保存し、必要に応じて復元することができます。

◆操作については、「メニュー設定の保存/復元」(46ページ)をご覧ください。

メニュー階層

メインメニュー1
1. 時刻設定
時刻設定
yyyy-mm-dd/hh:mm:ss
外部時刻設定
調整時刻
hh:mm
2. 映像入力設定/プリリバース
映像入力設定/マルチプレクサー
SONY/そのた1/そのた2/そのた3/なし
プリリバース再生/プリリバース再生時間
n 分
3. 記録領域設定
全容量
通常記録領域
記録再開許可
アラーム記録領域
記録再開許可
アーカイブ領域
記録再開許可
4. 記録設定
シリーズ記録
入/切
通常記録領域/上書き記録
入/切
アラーム記録領域/上書き記録
入/切
ディスク残量警告
n %
5. 通常記録設定
記録画質
HYPER/SUPER/HIGH/MID/LOW
フレーム/フィールド記録
フレーム/フィールド
音声記録
入/切
記録周期
n 秒
6. タイマー設定
曜日
日/月/火/水/木/金/土/毎日
開始
hh:mm
終了
hh:mm
記録周期
n 秒
7. 休日設定
mm-dd
8. アラーム記録設定
記録画質
HYPER/SUPER/HIGH/MID/LOW
フレーム/フィールド記録
フレーム/フィールド
音声記録
入/切
アラーム記録
モード1/モード2/モード3/モード4/切
記録周期
n 秒
持続時間
1秒/2秒/5秒/10秒/20秒/40秒/
1分/2分/3分/4分/5分/10分/
15分/CC
プリアラーム記録
入/切
記録周期
n 秒
持続時間
2秒/3秒/5秒/10秒/20秒/40秒/
1分/2分/3分/4分/5分/10分/15分
アラームトリガー
アラーム/センサー/アラームOR
センサー/アラームANDセンサー
アクティビティーセンサー
メインメニュー2へ

メインメニュー2
1. データ表示/無信号検出設定
データ表示設定
日付
入/切
時刻
入/切
記録画質
入/切
記録周期
入/切
アラーム回数
入/切
アラームタイプ
入/切
無信号検出設定
無信号検出
入/切
2. RS-232C/RS-485設定
コントロール
RS-232C/RS-485
データスピード
2400/4800/9600/19200
ステータス
入/切
アラーム
入/切
アドレス
3. ブザー設定
アラーム入力
入/切
ディスク容量警告
入/切
ディスクエラー
入/切
ロック警告
入/切
キーイン
入/切
無録画
入/切
4. セキュリティーロック設定
管理者
パスワード
入/切
使用者
パスワード
入/切
記録操作権限
管理者
5. ネットワーク設定
ネットワークカード
LAN1/LAN2
ネットワーク操作
入(接続表示:入)/入(接続表示:切)/切
IPアドレス
サブネットマスク
ゲートウェイ
ポート
パスワード
ID1
ID2
ID3
6. ハードディスク設定
ディスク1
ディスク2
初期化
ミラーリング
入/切
再生用ディスク
ディスク1/ディスク2
7. 停電情報/使用時間
停電情報
使用時間
ファームウェア情報
メインメニュー1へ
サーチ
アラームサーチ
アラームサムネイルサーチ
日時サーチ
アーカイブ領域サーチ
アクティビティー ディテクション サーチ
DDSへのバックアップ設定
バックアップ
復元
消去

記録の概要

記録の種類

本機では、通常記録、アラーム記録、タイマー記録により、画像+音声（1チャンネル）を記録することができます。

通常記録

● RECボタンを押すことによって記録が開始され、画像/音声は内蔵HDDの通常記録領域に記録されます。

アラーム記録

外部信号や内部センサーを開始のトリガーとして記録が開始され、画像/音声は内蔵HDDのアラーム記録領域に記録されます。開始トリガーが検出されたときから指定した時間だけさかのぼって記録を行うこともできます（プリアラーム記録）。

タイマー記録

設定した時間帯に記録が行われます。画像/音声は内蔵HDDの通常記録領域に記録されます。

通常記録、アラーム記録、タイマー記録で記録された画像は、それぞれの記録領域とは独立して割り当てられたアーカイブ領域にコピーして保存しておくことができます。

◆詳しくは「データの保存」（32ページ）をご覧ください。

ご注意

本機の性能上、ごく希に画像の欠落が発生する場合があります。

記録の領域

内蔵HDDは、通常記録領域、アラーム記録領域、アーカイブ領域に分割されています。
通常記録領域には、デフォルトで80%の領域が割り当てられています。
アラーム記録領域には、デフォルトで19%の領域が割り当てられています。
アーカイブ領域には、デフォルトで1%の領域が割り当てられています。
それぞれの領域の割り当ては、メインメニュー1の「記録領域設定」で変更することができます。通常記録領域およびアラーム記録領域では、それぞれ残量がなくなったときに記録を中止するか上書きするかを、メインメニュー1の「記録設定」で選択することもできます。必要な場合リセットして領域内を空にすることも可能です。

◆詳しくは「記録領域を設定する」（49ページ）をご覧ください。

シリーズ記録

HSR-X200を2台以上接続することによって、記録領域の残量がなくなったときに次のHSR-X200に記録を継続させることができます。
メインメニュー1の「記録設定」でシリーズ記録を「入」にしておくと、1台目のHSR-X200の記録領域がいっぱいになった時点で2台目のHSR-X200で記録が開始されます。

◆シリーズ記録のための接続と設定については、「シリーズ接続と設定」（42ページ）をご覧ください。

カメラ入力画像の拡大

停止状態では、ZOOMボタンを押すことによってモニター画面に表示されているカメラからの映像の一部を、拡大して表示させることができます。
操作は再生画像の拡大の方法と同じです。モニター上で拡大しても記録画像には影響はありません。

◆「再生画像を拡大する」（37ページ）をご覧ください。

必ずお読みください。

- 大切な記録の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に記録されていることを確認してください。
- レコーダーを使用中、万一その不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

通常記録

通常記録の条件を設定する

通常記録には、記録画質、フレーム/フィールド記録、音声記録の入/切、記録周期を設定できます。
設定はメインメニュー1の「通常記録設定」で行います。

```
<通常記録設定>

記録画質                 ：  HIGH
フレーム／フィールド記録  ：  フィールド
音声記録                 ：  入
記録周期  ：  A  0.10秒（   20H）
```

記録画質

5段階の記録画質から選択します。デフォルトはHIGHです。

HYPER：52 KB/フィールドで記録します（2 KBのヘッダー部を含む）。

SUPER：44 KB/フィールドで記録します（2 KBのヘッダー部を含む）。

HIGH：32 KB/フィールドで記録します（2 KBのヘッダー部を含む）。

MID：24 KB/フィールドで記録します（2 KBのヘッダー部を含む）。

LOW：17 KB/フィールドで記録します（2 KBのヘッダー部を含む）。

画質を落とすことによって、記録できる時間が長くなります。

フレーム/フィールド記録

記録時の画像取り込みには、フレームモードとフィールドモードを選択できます。

フレーム： フレーム単位で画像を記録します。再生するとき、フレーム表示、フィールド表示を切り替えることができます。

フィールド： フィールド単位で画像を記録します。

音声記録

映像と同時に音声を記録するとき「入」にします。

ご注意

記録周期を0.10（フィールドモード）または0.20（フレームモード）以下の値に設定した場合のみ、音声記録が可能です。

記録周期

27段階の周期（小数点以下第3位を四捨五入して小数点以下2桁を表示）を選択できます。
フレームモードでの記録周期は、フィールドモードの2倍になります。
◆記録周期と記録時間の関係については、26ページの表をご覧ください。

設定手順

1 MENUボタンを押して、メインメニュー1をモニター画面に呼び出す。

2 ジョグダイヤルを回して、「5. 通常記録設定」を選び、シャトルダイヤルを右に回す。

「通常記録設定」画面が表示されます。

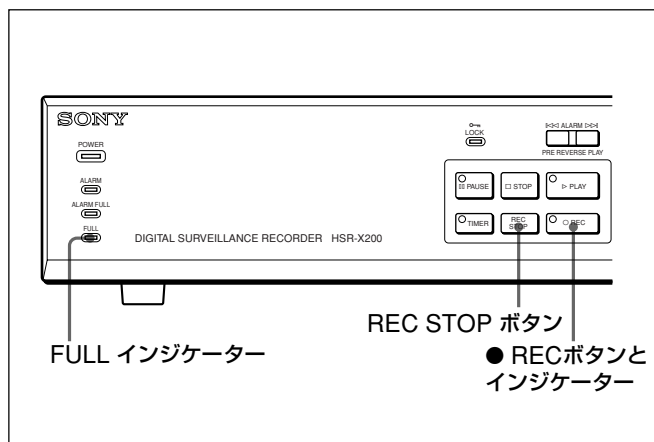
3 ジョグダイヤルを回してカーソルを設定する項目に合わせ、シャトルダイヤルを右に回して選択を確定する。

選択した項目の現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の設定に変更し、シャトルダイヤルを右に回して設定を確定する。。

選択した記録画質と記録周期によって、記録可能な時間が算出され、記録周期の右の括弧内に表示されます。
音声記録が可能な条件に設定されたときは、記録周期の値の前に「A」が表示されます。

5 設定が終わったら、EXIT/OSDボタンを押してメニューを抜ける。

通常記録を実行する

記録を開始するには

● REC ボタンを押します。

ボタンのインジケーターが点灯し、記録が始まります。

指定した記録画質/記録周期で、通常記録領域に記録されます。

「音声記録」が「入」で音声記録が可能な記録周期に設定されているときは、音声も同時に記録されます。

ご注意

タイマー記録が設定されているとき（TIMERボタンのインジケーター点灯時）は、● RECボタンを押して記録を開始することはできません。TIMERボタンを押してタイマー記録を解除してください。

通常記録領域の上書きがOFFになっている場合は、残量が設定値（デフォルトは1%）以下になると、モニター画面に警告メッセージが表示され、FULLインジケーターが点滅し、後面パネルのFULL端子から警告信号が出力されます。

上書き記録の入/切および警告を出す残量の値は、メインメニュー1の「記録設定」で変更できます。

◆詳しくは、52ページをご覧ください。

記録を止めるには

REC STOP ボタンを押します。

記録時間

記録時間（単位：時間）

記録周期			記録画質				
フィールドモード	フレームモード	TLV換算					
秒　(fps)	秒　(fps)	モード (H)	LOW	MID	HIGH	SUPER	HYPER
0.02 (60.0)	0.03 (30.0)	2	21 (20)	15 (14)	11 (11)	8 (8)	7 (7)
0.03 (30.0)	0.07 (15.0)	4	42 (40)	30 (29)	22 (22)	16 (16)	14 (14)
0.05 (20.0)	0.10 (10.0)	6	63 (60)	45 (43)	34 (33)	24 (24)	21 (20)
0.07 (15.0)	0.13 (7.5)	8	84 (80)	60 (57)	45 (43)	33 (32)	28 (27)
0.10 (10.0)	0.20 (5.0)	12	126 (119)	90 (86)	67 (65)	49 (48)	41 (41)
0.13 (7.5)	0.27 (3.8)	16	169	119	90	65	55
0.17 (6.0)	0.33 (3.0)	20	211	149	112	81	69
0.20 (5.0)	0.40 (2.5)	24	253	179	134	98	83
0.23 (4.3)	0.47 (2.1)	28	295	209	157	114	96
0.27 (3.8)	0.53 (1.9)	32	337	239	179	130	110
0.30 (3.3)	0.60 (1.7)	36	379	269	201	146	124
0.33 (3.0)	0.67 (1.5)	40	421	298	224	163	138
0.37 (2.7)	0.73 (1.4)	44	463	328	246	179	151
0.43 (2.3)	0.87 (1.2)	52	548	388	291	212	179
0.50 (2.0)	1.00 (1.0)	60	632	448	336	244	207
0.60 (1.7)	1.20 (0.83)	72	758	537	403	293	248
0.70 (1.4)	1.40 (0.71)	84	885	627	470	342	289
0.80 (1.3)	1.60 (0.63)	96	1.011	716	537	391	331
0.90 (1.1)	1.80 (0.56)	108	1,137	806	604	439	372
1 (1.0)	2 (0.50)	120	1,264	895	671	488	413
2 (0.50)	4 (0.25)	240	2,528	1,790	1,343	977	826
3 (0.33)	6 (0.17)	360	3,791	2,686	2,014	1,465	1,239
4 (0.25)	8 (0.13)	480	5,055	3,581	2,686	1,953	1,653
5 (0.20)	10 (0.10)	600	6,319	4.476	3,357	2,441	2,056
10 (0.10)	20 (0.05)	1,200	12,638	8,952	6,714	4,883	4,132
20 (0.05)	40 (0.03)	2,400	25,276	17,904	13,428	9,766	8,263
30 (0.03)	60 (0.02)	3,600	37,914	26,855	20,142	14,648	12,395

（　）：音声記録あり

表に示された記録時間は、下記の条件での値を表しています。

- 80GBのハードディスクドライブ1台搭載：
  ハードディスクドライブの容量が2倍になれば記録時間も2倍、4倍になれば記録時間も4倍になります。
- ドライブ容量の1%をアーカイブ領域、残りの99%を通常記録領域に設定
- 1入力：
  カメラが複数台になった場合は、記録領域をシェアして使用します。例えば、記録周期を1秒に設定した場合、カメラが2台のときはそれぞれのカメラは2秒ごとに、8台のときは8秒ごとに記録されることになります。

ご注意

JPEG圧縮して画像を記録しているため、画像によってファイルサイズが若干異なります。そのため記録時間が表の値と必ずしも一致しない場合があります。

アラーム記録

指定したトリガーを検出したときに自動的に記録を開始させることができます。次のトリガーを単独または組み合わせて選択できます。

1. 外部アラーム入力

2. 内部アクティビティーディテクションセンサーによる、設定した画像ポイントにおける輝度変化（アクティビティー）の検出

プリアラーム記録を「入」に設定しておくと、指定した時間を繰り返し上書き記録します。トリガーが検出されると、通常のアラーム記録に切り替わります。これによって、トリガー検出前の状態も確認することができます。

ご注意

別売りのマルチプレクサーを使用する場合は、外部アラーム入力のみ選択できます。また指定したチャンネルのみ記録されます。

◆チャンネルの指定については、「マルチプレクサーチャンネルを選択する」(37ページ）をご覧ください。

アラーム記録の条件を設定する

アラーム記録には、トリガーの種類を含め、次のような条件を設定できます。
設定は、メインメニュー1の「アラーム記録設定」で行います。

```
<アラーム記録設定>
記録画質                 ：  SUPER
フレーム／フィールド記録 ：  フィールド
音声記録                 ：  入
アラーム記録             ：  モード1
  記録周期：   0.33秒、持続時間：40秒
プリアラーム記録         ：  入
  記録周期： A  0.05秒、持続時間：1分
  ➔  （1000回アラーム記録可能）
アラームトリガー  ：  アラームANDセンサー
  アクティビティーセンサー     ➔
```

記録画質

フレーム/フィールド記録

音声記録 入/切

記録周期

それぞれ通常記録と同様に設定できます。

アラーム記録

アラーム記録の実行モードを指定します。

モード1： タイマー記録の設定に関わらず、アラーム記録を受け付ける

モード2： タイマー記録が行われている間にのみ、アラーム記録を受け付ける

モード3： タイマー記録が行われていない間にのみ、アラーム記録を受け付ける

モード4： タイマー記録は行わず、タイマーが設定されている時間の間のみアラーム記録を受け付ける

アラーム記録を行わないときは「切」に設定します。

持続時間

アラーム記録を行う時間を設定します。
1秒 /2秒 /5秒 /10秒 /20秒 /40秒 /1分 /2分 /3分 /4分 /5分 /10分 /15分 /CCから選択できます。
CCを選択するとアラーム信号がONの間記録が行われます。

プリアラーム記録

プリアラーム記録を行うときは、「アラーム記録」を「入」にして「プリアラーム記録」を「入」にし、記録周期および記録（持続）時間を設定します。
選択できる記録時間は、設定した記録周期によって異なります。

◆記録周期と記録時間の関係については、29ページの表をご覧ください。

ご注意

「アラーム記録」が「切」に設定されているときは、「プリアラーム記録」にカーソルを移動することはできません。

アラームトリガー

アラームのトリガーを選択します。

アラーム： 外部アラーム入力

センサー： 内部アクティビティーディテクションセンサーによる輝度変化の検出

アラームANDセンサー： 外部アラームと内部アクティビティーディテクションセンサーのアラームの両方が同時にONになったとき

アラームORセンサー： 外部アラームと内部アクティビティーディテクションセンサーのアラームのどちらかがONになったとき

設定の手順

1 MENUボタンを押してメインメニュー1をモニター画面に呼び出す。

2 ジョグダイヤルを回して「8. アラーム記録設定」を選び、シャトルダイヤルを右に回す。

「アラーム記録設定」画面が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してカーソルを設定する項目に合わせ、シャトルダイヤルを回して選択を確定する。

選択した項目の現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の設定に変更し、シャトルダイヤルを回して選択を確定する。

記録周期を設定すると、アラーム記録領域の容量と選択した記録画質から、いくつのイベントを記録できるかを算出して、下から3行目の括弧内に表示します。

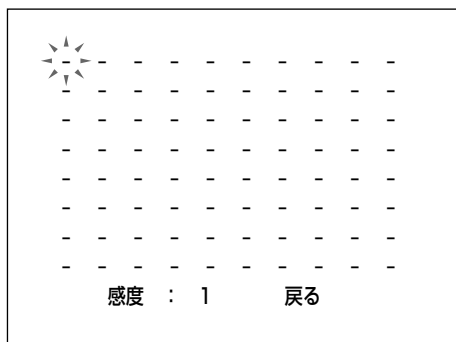
ご注意

通常記録領域が設定されているときは、プリアラーム記録の記録周期は最高0.05秒に制限されます。通常記録領域を設定しない(領域を0%に設定した)場合は、0.02秒まで設定可能です。

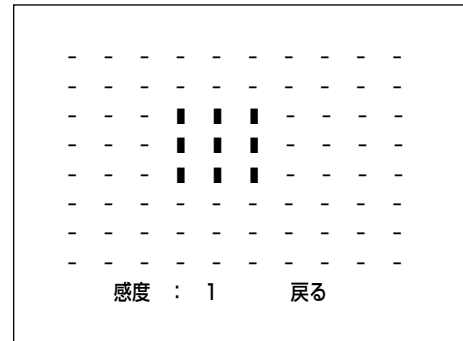
5 アラームのトリガーに内部アクティビティーディテクションセンサーを選択したときは、センサーを働かせるポイントおよび感度を設定する(次項)。

6 「アラーム記録設定」画面の設定が終わったら、EXIT/OSDボタンを押してメニューを抜ける。

アクティビティーディテクションセンサーの設定

内部アクティビティーディテクションセンサーを使用するときは、センサーを働かせるポイントおよび感度の設定が必要です。
「アクティビティーセンサー」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回してセンサー設定画面に切り替えます。
10×8のセンサーマークが表示され、左上のマークが点滅します。

センサーをオンにするには

ジョグダイヤルを回すとマークの点滅が次に移動します。
センサーを働かせたい位置のマークが点滅したら、シャトルダイヤルを右に回して確定します。マークが▮に変わります。
同様にセンサーを働かせたい位置のマークをすべて▮に設定します。

例:

感度を設定するには

センサーの感度を1〜10の間で選択できます。数字が小さいほど感度が高くなります。1が最高感度です。

1 右下のセンサーポイントでジョグダイヤルを右に回して、「感度」にカーソルを移動し、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。
「切」にするとセンサーは働きません。

2 希望の感度値が点滅表示されたらシャトルダイヤルを右に回して確定する。

感度設定中に動きを検出したときは

ブザーが鳴ります。
これにより、設定画面での動き検出チェックが可能です。

センサー設定画面を抜けるには

センサーの設定が終ったら、ジョグダイヤルを右に回して「戻る」を選択します。
シャトルダイヤルを右に回すと元の画面に戻ります。

プリアラーム記録の記録周期と記録時間

記録周期	選択できる記録時間（s: 秒　m: 分）
0.02	2s/3s/5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.03	3s/5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.05	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.07	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.10	10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.13	10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.17	10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.20	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.23	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.27	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.30	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.33	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.37	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.43	40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.50	40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.60	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.70	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.80	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
0.90	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1.00	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m

アラーム記録を実行する

指定したトリガーが検出されると、自動的に記録が始まります。「アラーム記録設定」画面で設定した条件で、アラーム記録領域に記録されます。

アラーム記録が行われると、モニター画面にカウント表示されます。カウント値は9999を超えると1に戻ります。

プリアラーム記録を「入」に設定したときは、 メニューを抜けるとHSR-X200は直ちにカメラ入力画像のプリアラーム記録を開始します。プリアラーム記録では、指定した時間のアラーム記録領域への上書き記録を繰り返します。トリガーが検出されるとアラーム記録に切り替ります。

ALARMボタンのインジケーターが、プリアラーム記録中は点灯、アラーム記録中は点滅します。

アラーム記録領域がいっぱいになったときは

アラーム記録領域の上書き記録が「切」に設定されている場合は、残量が指定した値（デフォルトは1%）以下になると、警告メッセージが表示されます。同時にALARM FULLインジケーターが点滅し、後面パネルのALARM FULL端子から警告信号が出力されます。上書き記録の入/切および警告を出す残量の設定は、メインメニュー1の「記録設定」で行います。

◆詳しくは、51ページをご覧ください。

ご注意

通常記録実行中にトリガーが検出されたときは、通常記録を継続したままアラーム記録を実行します。

タイマー記録

毎週指定した曜日の指定した時間帯に録画したり、毎日指定した時間帯に記録を実行することができます。
最大8件のタイマー記録を設定できます。
「休日設定」を行うと、指定した日の曜日に関わらず、日曜日と同じ条件でタイマー記録を実行できます。

タイマー記録では、通常記録に選択されたのと同じ記録画質で、通常記録領域に記録されます。

タイマー記録を実行する前に

内蔵の時計が正しく設定されていることを確認してください。設定はメインメニュー1の「時刻設定」（50ページ）で行います。

タイマー記録の条件を設定する

録画を行う曜日、開始時刻・終了時刻を設定します。
設定は、メインメニュー1の「タイマー設定」で行います。

<タイマー設定>

曜日	開始	終了	記録周期（秒）		入/切
[日]	--：--	--：--	--	(----H)	切
[月]	08：00	18：00	A 0.05秒	(14H)	入
[火]	08：00	18：00	A 0.20秒	(27H)	入
[水]	08：00	18：00	0.20秒	(54H)	入
[木]	08：00	18：00	A 0.07秒	(18H)	入
[金]	08：00	18：00	30秒	(45H)	入
[土]	--：--	--：--	--	(----H)	切
毎日	--：--	--：--	--	(----H)	切

開始： 記録開始時刻を、時、分の順番で設定します。
終了： 記録終了時刻を、時、分の順番で設定します。
記録周期： 記録周期を設定します。
入/切： 設定した条件でタイマー記録を実行させるときは「入」にします。

記録画質は通常記録に選択されたものが適用されます。
ここで記録周期を設定すると、自動的に記録可能時間が算出され、記録周期の右の括弧内に表示されます（表示できる値は最大9999）。
音声記録が可能な場合は、記録周期の前に「A」が表示されます。

ご注意

各行に表示される記録可能時間は、通常記録領域のすべての領域を、対応する行に設定されたタイマー記録のみで使い切った場合の値です。すべての行に表示されている値のトータル時間が記録可能な訳ではありません。実際のトータル記録可能時間を算出するアプリケーションソフトが用意されています。
◆アプリケーションソフトについては、お買い上げ店にご相談ください。

設定手順

1 MENUボタンを押して、メインメニュー1をモニター画面に呼び出す。

2 ジョグダイヤルを回して「6. タイマー設定」を選び、シャトルダイヤルを右に回して設定画面を呼び出す。

「タイマー設定」画面が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回して設定する行を選び、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

選択した行の「曜日」欄が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して曜日を選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

毎日同じ条件で記録するときは、「毎日」(月曜日～日曜日までのすべての曜日を含む)に設定します。
「開始」の左側の欄が点滅します。

5 ジョグダイヤルとシャトルダイヤルで、同じ行の各項目を設定する。

2日にまたがる録画を実行するには

開始時刻より、終了時刻が早い場合は、終了時刻の前に「T」（Tomorrowの頭文字）が表示され、2日にまたがって録画が実行されます。

例： 日曜の20時から月曜の6時まで録画する

[日] 20：00　T06：00　0.10秒 (52H)　入

24時間を超える録画を実行するには

下から2行目と3行目を使用します。
上の行で開始日時を、下の行で終了日時を設定します。

例： 土曜の19時から月曜の6時まで録画する

[土] 19：00　**：**　***　****　***
[月] **：**　06：00　0.10秒 (52H)　入

上の行の終了時刻で「**」を選択すると、下の行の開始時刻までが「**」に設定されます。
シャトルダイヤルを右に回すと下の行の曜日が点滅します。
曜日を設定してシャトルダイヤルを右に回すと下の行の終了時刻が点滅しますので、終了時刻以降の項目を設定します。

設定を終了するときは

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

タイマー設定の優先順位

複数の設定行で時間の重なりが生じた場合は、重なった部分の時間のみ下記の順番で設定が優先されます。
① 単独曜日の設定（2日にまたがる設定も含む）
② 24時間を超える設定
③「毎日」の設定

休日設定

休日に指定した日は、日曜日と同じ条件でタイマー記録が実行されます。
1年のうち任意の20日を休日指定することができます。

1 メインメニュー1から「7. 休日設定」を選択するか、「タイマー設定」画面でMENUボタンを押す。

「休日設定」画面になります。

<休日設定>

1	03-29	11	-----
2	04-15	12	-----
3	-----	13	-----
4	-----	14	-----
5	-----	15	-----
6	-----	16	-----
7	-----	17	-----
8	-----	18	-----
9	-----	19	-----
10	-----	20	-----

2 設定したい行（1〜20）にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

月の欄が点滅します。

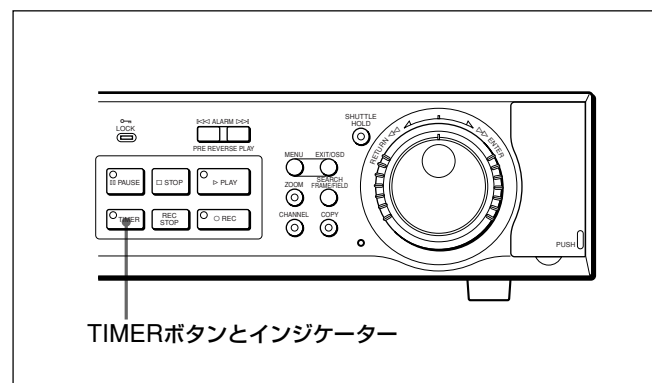
3 ジョグダイヤルを回して休日設定したい月を選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

日の欄が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して休日に設定したい日を選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

同様に20日まで設定できます。

5 設定が終わったらEXIT/OSDボタンを押してメニューを抜ける。

タイマー記録を実行する

TIMERボタンとインジケーター

タイマー記録を有効にするには

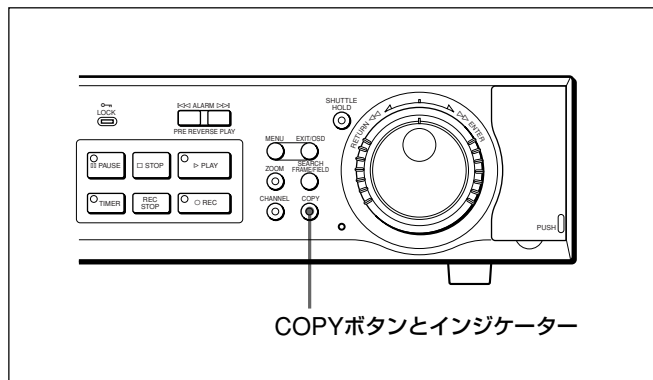
前面パネルのTIMERボタンを押します。
ボタンのインジケーターが点灯し、タイマー記録待機状態になります。
「開始」に指定した曜日の指定した時刻になると自動的に記録が始まり、● RECボタンのインジケーターが点灯します。
タイマー記録では、通常記録に設定された記録画質で通常記録領域に記録されます。
指定した「終了」時刻になると、記録が終了します。

タイマー記録をキャンセルするには

TIMERボタンを押してインジケーターを消灯させ、タイマー記録待機状態を解除します。
タイマー記録実行中の場合も、TIMERボタンを押すと、その時点で記録が停止します。

データの保存

COPYボタンを使って、通常記録領域やアラーム記録領域に記録されたデータを、独立したアーカイブ（記録保存）領域にコピーし、保存しておくことができます。

COPYボタンとインジケーター

アーカイブ領域には、最大で9999イベントの画像と音声を保存することができます。
アーカイブ領域にコピーしたデータは、別売りのメモリースティックやCD-Rにコピーすることもできます。
またDDSドライブを接続した場合は、アーカイブ領域全体をバックアップすることができます。

◆データ保存のための接続については、45ページをご覧ください。

ご注意

- 通常記録領域やアラーム記録領域からメモリースティックやDDSテープにコピーする場合、まずアーカイブ領域にコピーされ、アーカイブ領域からメモリースティックやDDSテープにコピーされます
  すでにアーカイブ領域にコピーされたデータは、直接メモリースティックまたはCD-Rへコピーすることができます。
- マルチプレクサーからの入力信号から特定のチャンネルを選択している場合は、選択されているチャンネルのみコピーされます。
- オーディオデータはDDSドライブにのみバックアップすることができます。メモリースティックやCD-Rへはコピーできません。

保存する画像の中に日時データを埋め込み、PCで専用のアプリケーションソフトを使用することにより、画像の中に日時を表示したり、印刷することもできます。

◆専用アプリケーションソフトについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

データをアーカイブ領域またはメモリースティックにコピーする

通常記録領域やアラーム記録領域内の画像データをコピーする場合は次のように操作します。

◆すでにアーカイブ領域にコピーされているデータをメモリースティックにコピーする場合は、次ページ「データをCD-Rに保存する」に従って操作してください。

1 再生モードにし、コピーを開始したい画像が表示されたら❚❚ PAUSEボタンを押して静止画モードにする。

2 COPYボタンを押す。

COPYボタンのインジケーターが点灯し、コピー設定画面が表示されます。

コピー先　：　アーカイブ領域
保存枚数　：　20枚
開始　→
PCカードのフォーマット　→
ジョグで移動、シャトルで選択

3 「コピー先」で画像のコピー先を指定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

アーカイブ領域： 通常記録領域やアラーム記録領域からアーカイブ領域にコピーするとき
PCカード： メモリースティックにコピーするとき

ジョグダイヤルでコピー先を選び、シャトルダイヤルを右に回して確定します。

「保存枚数」の行が反転します。

4 「保存枚数」の行でコピーする画像の量を設定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

数値入力欄が点滅します。

(1) ジョグダイヤルで数値を指定して、シャトルダイヤルを右に回して確定する。
単位選択欄が点滅します。

(2) ジョグダイヤルで単位を選択して、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

枚： 枚数で指定するとき

秒： 秒単位で指定するとき

分： 分単位で指定するとき

「開始」が反転します。

5 シャトルダイヤルを右に回す。

コピーが始まります。

コピーが終了するとCOPYボタンのインジケーターが消灯します。

途中でコピーを中止するには

COPYボタンを押します。コピーがキャンセルされます。

アーカイブ領域がいっぱいになったときは

メインメニュー1の「記録領域設定」で領域全体をリセットすることができます。
特定のイベントのみを削除することはできません。

DDSテープにデータをバックアップする

DDSドライブを使用して、アーカイブ領域全体をバックアップし、必要に応じて読み込むことができます。

1 接続したDDSドライブにDDSテープを入れる。

◆DDSテープおよびドライブの使いかたについては、使用するDDSテープおよびドライブの説明書をご覧ください。

2 停止状態か記録モードでCOPYボタンを押す。

COPYボタンのインジケーターが点灯し、「DDSへのバックアップ設定」画面になります。

```
<DDSへのバックアップ設定>
バックアップ　　　　　→
復元　　　　　　　　　→
消去　　　　　　　　　→
```

3 ジョグダイヤルで実行したい動作を選択する。

バックアップ： アーカイブ領域の全データをDDSテープにバックアップする。

復元： DDSテープのデータをアーカイブ領域に読み込む。

消去： DDSテープのデータを消去する。

ご注意

復元を実行すると、それ以前のアーカイブ領域のデータは消去されます。

4 シャトルダイヤルを右に回す。

バックアップを選択したときは、 バックアップが始まります。

復元または消去を選択したときは、 接続したDDSドライブに挿入されているテープに保存されているデータのリストが表示されます。

手順**5**に進みます。

5 ジョグダイヤルで復元または消去するデータを選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。

6 復元または消去を実行するときは「はい」、とりやめるときは「いいえ」を選択して、シャトルダイヤルを右に回す。

復元または消去が始まります。

バックアップを途中でやめるには

❚❚ PAUSEボタンを押します。
復元や消去は開始後中止することはできません。

データをCD-Rに保存する

CD-Rドライブを使用して、本機で記録した画像をCD-Rにコピーすることができます。

ご注意

- CD-Rにコピーした画像は、専用ソフトウェアを使用して見ることができます。
  ◆詳しくはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。
- CD-Rドライブから本体に読み戻すことはできません。

CD-Rに画像をコピーする場合は、コピーしたい画像をあらかじめアーカイブ領域にコピーします。

◆アーカイブ領域にコピーする手順については「データをアーカイブ領域またはメモリースティックにコピーする」（32ページ）をご覧ください。

アーカイブ領域からは、同様の手順でメモリースティックにコピーすることもでききます。

1 SEARCH FRAME/FIELDボタンを押してサーチメニュー（38ページ）を呼び出し、「アーカイブ領域サーチ」を選んで、シャトルダイヤルを右に回す。

2 CD-Rにコピーしたいイベントを選び、シャトルダイヤルを右に回す。

3 コピーを開始したい画像が表示されたら、❚❚ PAUSEボタンを押して静止画モードにする。

4 COPYボタンを押す。

COPYボタンのインジケーターが点灯し、コピー設定画面が表示されます。

5 シャトルダイヤルを右に回して、「コピー先」の設定を点滅させ、ジョグダイヤルを回して「CD-R」を選択する。
(**メモリースティックにコピーするときは**、「PCカード」を選択してください。)
シャトルダイヤルを右に回して確定します。

「保存枚数」の行が反転します。

6 「保存枚数」の行でコピーする画像の量を設定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

数値入力欄が点滅します。

(1) ジョグダイヤルで数値を指定して、シャトルダイヤルを右に回して確定する。
単位選択欄が点滅します。

(2) ジョグダイヤルで単位を選択して、シャトルダイヤルを右に回して確定する。
枚： 枚数で指定するとき
秒： 秒単位で指定するとき
分： 分単位で指定するとき
イベント： イベント単位で指定するとき（CD-Rにコピーする場合のみ選択可能）

CD-Rがフルになるまでコピーするには：
保存枚数を「＞60イベント」に設定します。
単位を「イベント」設定した場合のみ、「＞60」を選択できます。
先に単位を「イベント」設定してから、数値を「＞60」に設定してください。

コピー先　：　CD-R

保存枚数　：　>60イベント
開始　　　　→

PCカードのフォーマット　→

ジョグで移動、シャトルで選択

「開始」が反転します。

7 シャトルダイヤルを右に回す。

コピーが始まります。
コピー中は、コピーの進捗状態が％で表示されます。

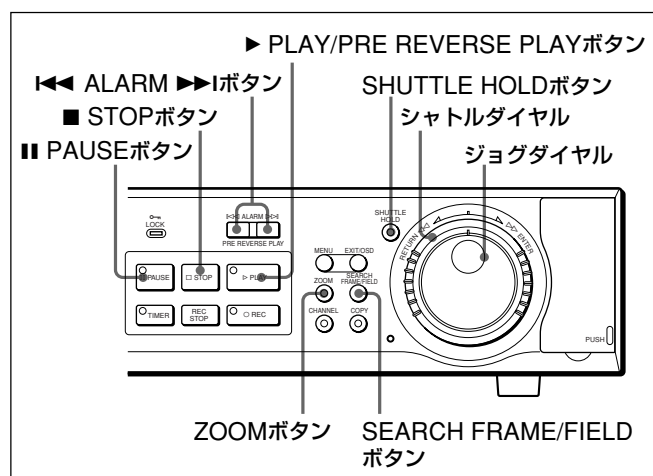
コピーが終了すると終了メッセージが表示され、COPYボタンのインジケーターが消灯します。

途中でコピーを中止するには
COPYボタンを押します。コピーがキャンセルされます。

再生

▶ PLAYボタンまたは検索操作によって、記録されている画像を再生することができます。
再生開始後は、正逆方向の高速再生・スロー再生、静止画再生、正逆方向のコマ送り再生など特殊再生モードも選択できます。
本機でチャンネル情報をデコードできるマルチプレクサーが接続されているときは、本機からチャンネルを選択することができます。
プリリバース再生では、記録を継続したまま、直前に記録された画像をチェックすることができます。

◆検索の操作については、「画像の検索」（38ページ）をご覧ください。

再生に使用するボタン/ダイヤル

通常の再生

▶ PLAYボタンを押します。
ボタンのインジケーターが点灯し、通常記録領域に記録された画像データの先頭位置または前回再生を止めた位置から再生が始まります。
音声が記録されているときは、記録時と同じスピードで画像が再生されている場合にのみ音声も再生されます。
記録されたデータの最後まで再生されると、自動的に静止画モードになります。

◆アラーム記録領域、アーカイブ領域の再生については「画像の検索」（38ページ）をご覧ください。

再生を止めるには

■ STOPボタンを押します。
現在の入力映像に切り替わります。

プリリバース再生—記録中に再生する

記録実行中に▶ PLAY/PRE REVERSE PLAYボタンを押します。
記録動作を継続したまま、現在の時刻から設定したプリリバース再生時間（1～99分）だけ戻った位置から通常記録領域の再生を行います。
記録を開始した直後で、設定したプリリバース再生時間より記録した時間のほうが短い場合には、記録開始点から再生が始まります。
現在時刻まで再生されると、プリリバース再生は解除されます。

プリリバース時間を設定する

プリリバース時間は、メインメニュー1の「映像入力設定/プリリバース」で設定できます。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1をモニター画面に呼び出す。

2 ジョグダイヤルを回して「2. 映像入力設定/プリリバース」を選び、シャトルダイヤルを右に回して設定画面を呼び出す。

<映像入力設定>
マルチプレクサー　：　SONY

<プリリバース再生設定>
プリリバース再生時間　：　10分

3 ジョグダイヤルを回して「プリリバース再生時間」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の時間に設定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

5 EXIT/OSDボタンを押してメニューを抜ける。

静止画再生

再生中に❚❚ PAUSEボタンを押します。
ボタンのインジケーターが点灯し、再生画像が静止します。
もう一度❚❚ PAUSEボタンを押すと、通常の再生モードに戻ります。

フレームスチル/フィールドスチルを切り換えるには

フレームモードで記録した画像を静止画表示しているときは、SEARCH FRAME/FIELDボタンを押すごとにフレームスチル、フィールドスチルが切り替わります。

コマ送り再生

ジョグダイヤルを使用して、正逆方向のコマ送り再生が可能です。
ジョグダイヤルを右クリックするごとに正方向に、左クリックするごとに逆方向に1フレームずつコマ送りされます。

変速再生

ジョグダイヤル、シャトルダイヤルで様々速度での再生が可能です。

ジョグダイヤルでの変速再生

ジョグダイヤルを使用して、再生スピード（フレーム/秒で定義される再生レート）を変化させることができます。
再生モードにして、ジョグダイヤルを回します。
右に回すと再生スピードが早くなり、左に回すと遅くなります。
標準の再生スピードに戻すときは、▶ PLAYボタンを押します。

シャトルダイヤルでの変速再生

シャトルダイヤルを使用して、正逆方向の高速再生・スロー再生が可能です。
通常の再生モード（PLAYボタンのインジケーターが点灯）または静止画モード（PAUSEボタンのインジケーターが点灯）のときにシャトルダイヤルを回すと、回した方向と角度に応じたスピードで再生されます。
ダイヤルから手を離すと元のモードに戻ります。

シャトルダイヤルの回転方向と角度	再生モードで回したとき	静止画モードで回したとき
右70°～80°	正方向スキップ再生	正方向4倍速
右50°～70°	正方向8倍速	正方向2倍速
右30°～50°	正方向4倍速	正方向標準速
右10°～30°	正方向2倍速	正方向1/2倍速
左10°～右10°	正方向標準速	静止画
左10°～30°	逆方向標準速	逆方向1/2倍速
左30°～50°	逆方向2倍速	逆方向標準速
左50°～70°	逆方向4倍速	逆方向2倍速
左70°～80°	逆方向スキップ再生	逆方向4倍速

変速再生を持続させるには

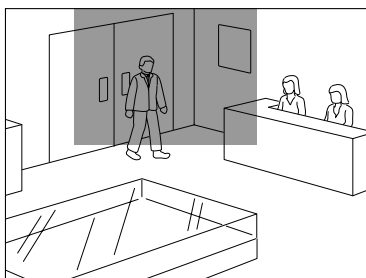
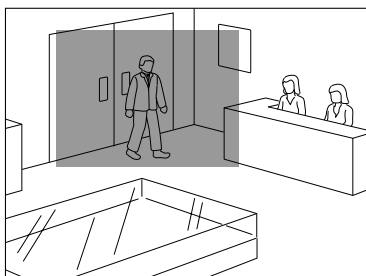
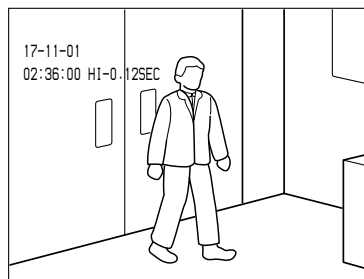
SHUTTLE HOLDボタンで、シャトルダイヤルによる変速再生を保持することができます。
希望の再生方向とスピードの位置までシャトルダイヤルを回し、SHUTTLE HOLDボタンを押してインジケーターを点灯させます。
設定した再生方向とスピードにロックされ、シャトルダイヤルを放しても維持されます。
元のモードに戻すときは、もう一度SHUTTLE HOLDボタンを押します。

再生画像を拡大する

ZOOMボタンを使用して、再生画像や静止画像を拡大表示することができます。

1 ZOOMボタンを押す。

拡大位置を指定するためのゾーンカーソルが表示されます。

2 ジョグダイヤルでゾーンカーソルを動かして水平位置を指定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

3 ジョグダイヤルでゾーンカーソルを動かして垂直位置を指定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

指定したゾーン内の画像が拡大されフル画面表示されます。

ズームモードでは、ZOOMボタンのインジケーターが点灯します。

ズームモードを解除するには

ZOOMボタンをもう一度押します。

マルチプレクサーチャンネルを選択する

ソニーYS-DX516など、本機でチャンネル情報をデコード可能なマルチプレクサーを接続している場合は、本機からチャンネル（カメラ）を選択できます。

1 静止画モードにして、CHANNELボタンを押す。

CHANNELボタンのインジケーターが点灯し、チャンネル入力画面が表示されます（チャンネル選択モード）。

チャンネルを選択してください。

＊＊チャンネル

ジョグで移動、シャトルで選択

2 ジョグダイヤルを回してチャンネル番号を指定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

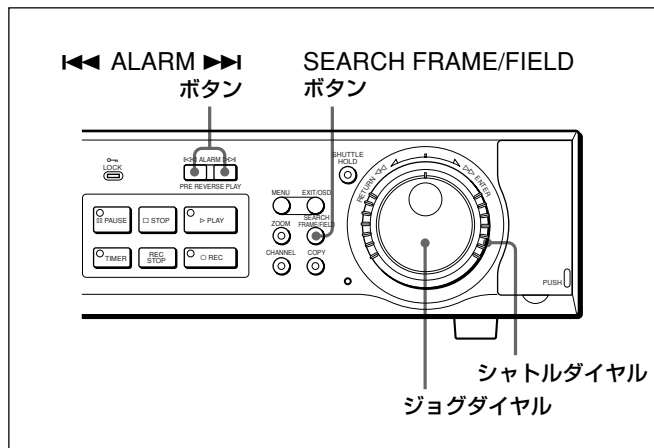
チャンネル選択モードから抜け、指定したチャンネルが表示されます。

チャンネル指定を解除するには

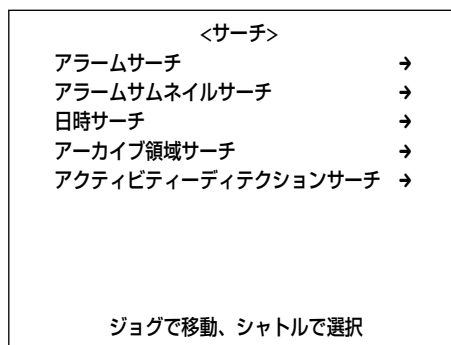
もう一度CHANNELボタンを押します。

画像の検索

HDDの各領域に記録・保存された画像を検索することができます。
検索には5つのサーチモードを選択できます。

検索に使用するボタン/ダイヤル

サーチモードを選択する

1 記録中または停止状態でSEARCH FRAME/FIELDボタンを押す。

サーチメニュー（サーチモード選択画面）が表示されます。

2 ジョグダイヤルを回して、実行したいサーチモードにカーソルを合わせる。

アラームサーチ：アラーム記録領域に記録された画像をリストから検索するとき

アラームサムネイルサーチ：アラーム記録領域に記録された画像をサムネイル画像で検索するとき

日時サーチ：通常記録領域またはアラーム記録領域に記録された画像を記録日時で検索するとき

アーカイブ領域サーチ：アーカイブ領域に保存されている画像を検索するとき

アクティビティー ディテクションサーチ：通常記録領域およびアラーム記録領域に記録された画像を、アクティビティーディテクションセンサーを使用して検索するとき

3 シャトルダイヤルを右に回す。

選択したサーチモードの設定画面に切り替わります。

サーチ画面を抜けるには

SEARCH FRAME/FIELDボタンをもう1度押します。

アラーム記録リストから検索する

アラーム記録された画像を、リストから検索することができます。

1 サーチメニューで「アラームサーチ」を選択する。

「アラームサーチ」画面になり、アラーム記録の番号と記録された日時がリスト表示されます。

検索できるアラーム記録イベントの総数が、右段の「アラーム回数」欄に表示されます。リストに1度に表示できるのは8件です。

2 ジョグダイヤルを回して、表示したいイベントにカーソルを合わせる。

カーソルを合わせて1秒経過すると、カーソル位置のイベントのサムネイル画像が右段のプリビュー欄に表示されます。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

再生モードになり、選択したイベントの画像が画面全体に表示されます。

ご注意

アラーム記録した部分の再生が終わると、静止画モードに入り、OSDのステータス表示も❚❚（静止画マーク）になりますが、まれに▶（再生マーク）のままになる場合があります。これはOSD表示だけの問題であり、本体動作には影響ありません。またネットワーク画面においては発生しません。

ALARM ⏮ ボタンでひとつ前のアラーム記録イベントの画像、⏭ボタンで次のアラーム記録イベントの画像にスキップします。

サムネイル画像で検索する

アラーム記録された画像を、サムネイル（略記）画像で検索することができます。

1 サーチメニューで「アラームサムネイルサーチ」を選択する。

アラームサムネイルサーチ画面になり、最新9件のアラーム記録の画像が9分割表示されます。

ALARM ⏮ ボタンを押すと、前の9件に切り替えることができます。

2 ジョグダイヤルを回して表示させたい画像の番号を点滅させる。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

再生モードになり、選択した画像がフル画面表示されます。ALARM ⏮ ボタンでひとつ前のアラーム記録イベントの画像、⏭ボタンで次のアラーム記録イベントの画像にスキップします。

記録した日時で画像を検索する

特定の日時に通常記録領域またはアラーム記録領域に記録された画像を検索して再生することができます。

1 サーチメニューで「日時サーチ」を選択する。

「日時サーチ」画面に切り替わります。

「記録開始」欄には最も古い記録の日時、「記録終了」欄には最も新しい記録の日時が表示されます。

2 検索したい日時を指定する。

ジョグダイヤルで数字を選び、シャトルダイヤルを右に回して次の欄に移動します。(ダイヤルを左に回すと前の欄に戻ります。)

プリビュー（サムネイル表示）するには

ジョグダイヤルでカーソルを「プリビュー」に移動し、シャトルダイヤルを右に回します。
手順**2**で指定した日時に記録されたイベントを検索し、サムネイル画像を右のプリビュー欄に表示します。
先にアラーム記録領域を検索し、次に通常記録領域を検索します。
指定した日時に合致するイベントがない場合は、最も近い日時の画像が表示されます。

フル画面表示するには

ジョグダイヤルでカーソルを「再生」に移動し、シャトルダイヤルを右に回します。
再生モードになり、指定した日時に記録された画像がフル画面表示されます。

アーカイブ領域の画像を検索する

アーカイブ（記録保存）領域にコピーされ保存されている画像を検索し、再生することができます。

1 サーチメニューで「アーカイブ領域サーチ」を選択する。

「アーカイブ領域サーチ」画面になり、アーカイブ領域にコピーされ保存されている画像のグループ番号、日付および先頭の画像の時刻がリストに表示されます。

「使用容量」欄には、アーカイブ領域の全容量および使用済み容量が表示されます。

リストに1度に表示できるのは8グループです。

2 ジョグダイヤルを回して、表示したい画像グループの行にカーソルを合わせる。

カーソルを合わせて1秒経過すると、カーソル位置のグループの先頭画像のサムネイル画像が右段のプリビュー欄に表示されます。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

再生モードになり、選択したグループの画像が画面全体に表示されます。

アクティビティーで画像を検索する

アクティビティーディテクションセンサー（輝度変化検出機能）を使用して、指定した時期に指定したブロックに輝度変化（アクティビティー）があった画像を検索することができます。
通常記録領域、アラーム記録領域を検索できます。

1 サーチメニューで「アクティビティーデディクションサーチ」を選択する。

「アクティビティーディテクションサーチ」画面になります。

<アクティビティーディテクションサーチ>
サーチ領域　：　アラーム
開始　：　12-20-01　08：00
終了　：　12-20-01　10：00

チャンネル　：　--

サーチ開始　➔　サーチ中

ジョグで移動、シャトルで選択

2 「サーチ領域」の行でサーチする領域を指定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

3 ジョグダイヤルで領域を選び、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

アラーム： アラーム記録領域のみを検索するとき
通常： 通常記録領域のみを検索するとき
アラームと通常： アラーム記録領域と通常記録領域の両方を検索するとき。先にアラーム記録領域を検索し、次に通常記録領域を検索します。

4 マルチプレクサー使用時は、CHANNELの行でチャンネルを指定する。

5 「サーチ開始」を反転表示させ、シャトルダイヤルを右に回す。

画面が切り替わり、指定した領域で最も古いデータのサムネイル画像がプリビュー欄に表示されます。

6 「開始」の欄で、検索開始の日時を指定する。

7 「終了」の欄で、検索終了の日時を指定する。

8 アクティビティーディテクションセンサーを設定するため、カーソルを「アクティビティーセンサー」に合わせてシャトルダイヤルを右に回す。

アクティビティーディテクションセンサーの設定画面になります。
センサーポイントと感度の設定を行います。

◆アクティビティーディテクションセンサーの設定については、28ページをご覧ください。

プレビュー画像（サムネイル）を表示するには

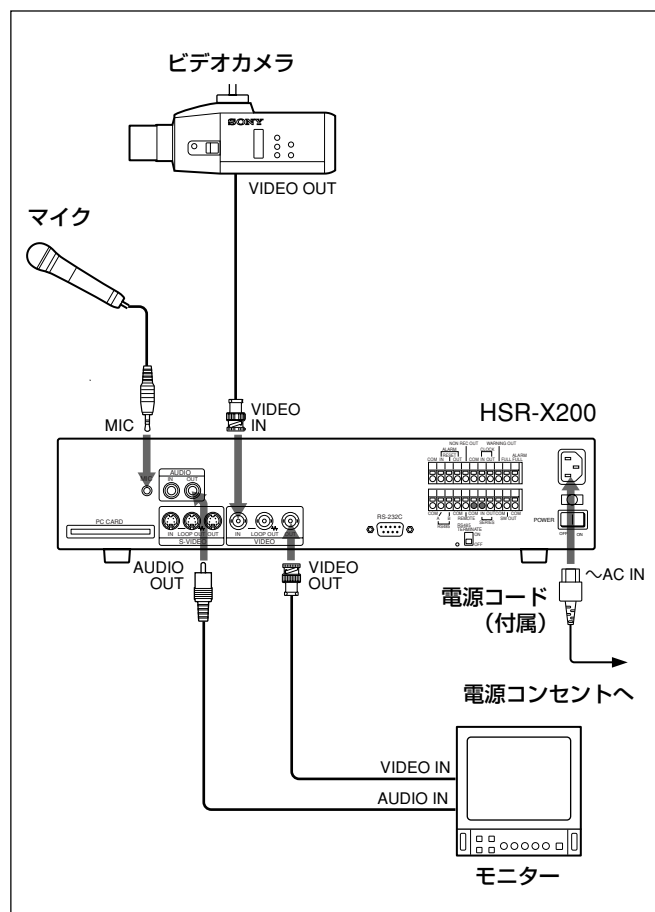
ジョグダイヤルでカーソルを「プリビュー」に移動し、シャトルダイヤルを右に回す。
指定した開始日時と終了日時の間に記録された画像の設定したセンサーポイントにおける輝度変化を検出し、変化のあった画像のサムネイル画像を右のプリビュー欄に表示します。

フル画面表示するには

ジョグダイヤルでカーソルを「再生」に移動し、シャトルダイヤルを右に回す。
再生モードになり、検索した画像を画面全体に表示します。

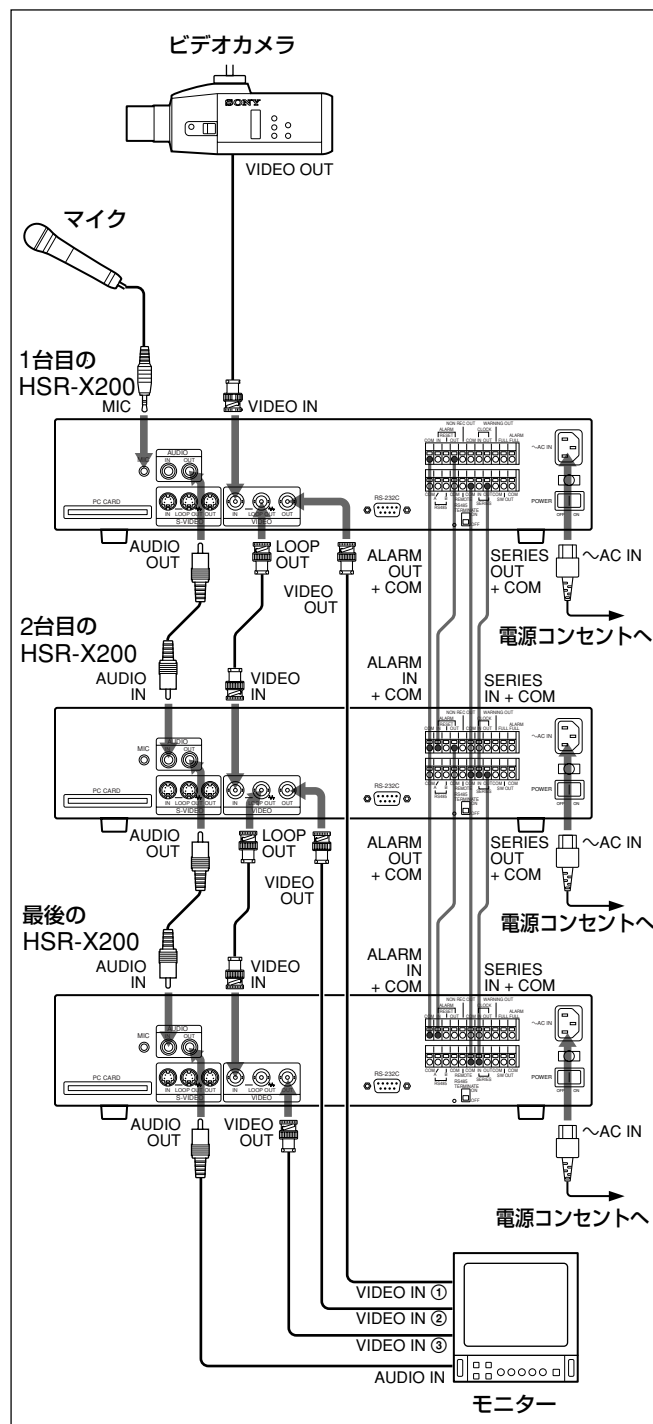
接続と準備

接続するときは、電源を切って作業してください。
電源コードは最後に接続してください。

基本接続例

S-VIDEO入出力がある機器を接続する場合は、VIDEO IN/VIDEO OUTの代わりにS-VIDEO IN/S-VIDEO OUTに接続できます。VIDEO INとS- VIDEO INの両方に入力があった場合はS-VIDEO INへの入力が優先されます。

シリーズ接続と設定

複数台のHSR-X200を接続することによって、シリーズ記録が可能になります。

接続例

設定

シリーズ記録を実行するときは、接続したすべてのHSR-X200でメインメニュー1を呼び出し、「4. 記録設定」で次のように設定してください。

◆メニュー操作については、「メニュー操作」（19ページ）をご覧ください。

<記録設定>

シリーズ記録　：　入

通常記録領域
　上書き記録　：　切
アラーム記録領域
　上書き記録　：　切

ディスク残量警告　：　1%

「シリーズ記録」を「入」にします。

通常記録領域、アラーム記録領域共、「上書き記録」を「切」にします。

◆上書き記録については詳しくは、「記録領域を設定する」（51ページ）をご覧ください。

ご注意

- タイマー記録が設定されていると記録ができません。すべてのHSR-X200でTIMERボタンが消灯していることを確認してください。
- 接続したHSR-X200のいずれかで、「上書き記録」が「入」になっていると、記録はそのHSR-X200で継続されます。

シリーズ記録を開始するには

1台目のHSR-X200の● RECボタンを押します。

リピート記録

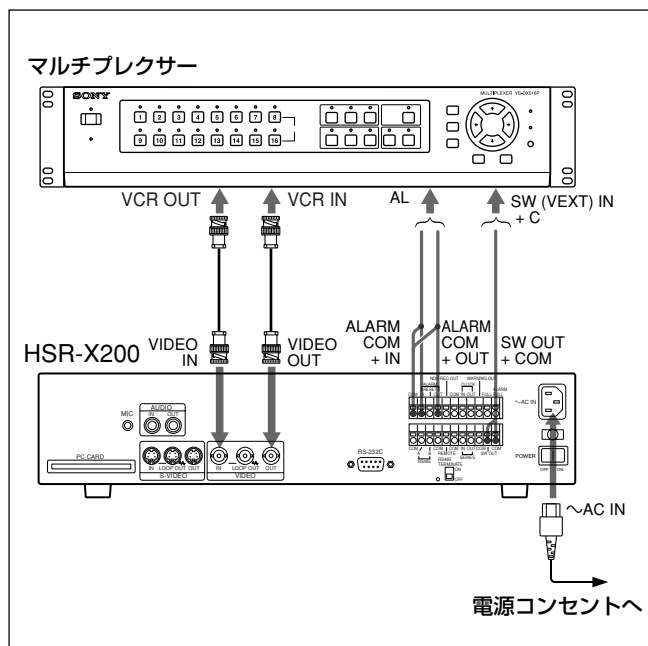
シリーズ接続された最後のセットの記録領域がフルになったら、最初のセットに戻って記録を継続（順次上書き）させることができます。

リピート記録する場合は、シリーズ接続された最後のセットのSERIES OUTおよびCOM端子を最初のセットのSIRIES INおよびCOM端子に接続してください。

ご注意

この機能は、通常記録とアラーム記録のみで動作します。

マルチプレクサーの接続と設定

接続例

設定

メインメニュー1の「2. 映像入力設定/プリリバース」を呼び出して、接続したマルチプレクサーの種類を指定してください。

◆メニュー操作については、「メニュー操作」（19ページ）をご覧ください。

<映像入力設定>

マルチプレクサー　：　SONY

<プリリバース再生設定>

プリリバース再生時間　：　10分

SONY： ソニー製マルチプレクサー（YS-DX516など）

そのた1： サンヨー製マルチプレクサー

そのた2： デディケーテッドマイクロズ、ロボットエレクトロニクス社のマルチプレクサー

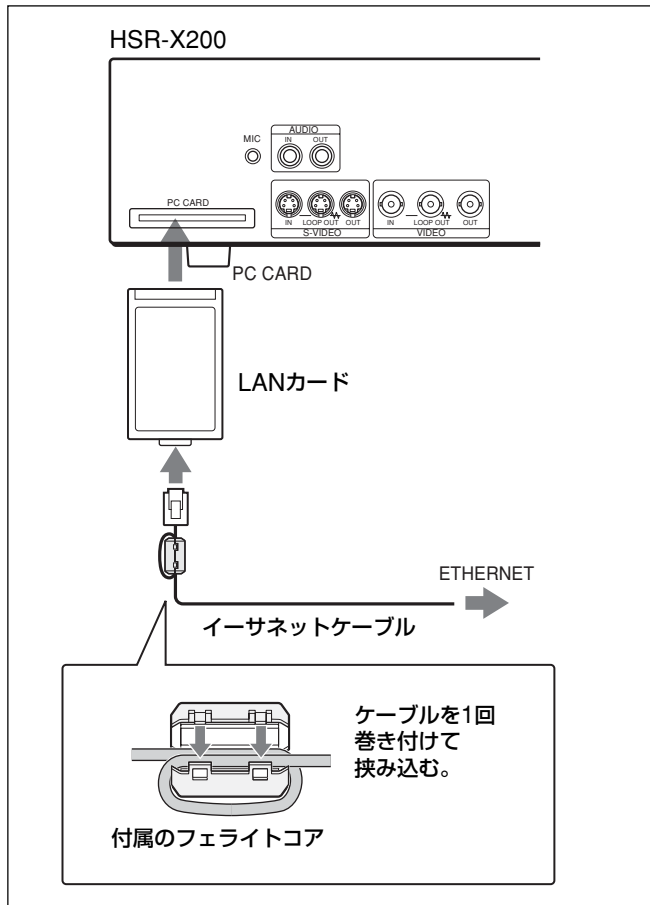
そのた3： 上記以外のメーカーのマルチプレクサー

なし： 使用しない

ネットワークへの接続と設定

後面パネルのPCカードスロットにオプションのネットワークカード（10BASE-Tまたは100BASE-T）を装着し、ネットワークに接続します。
ライブ画像の閲覧のみ可能なID1ユーザー3人と、ID2ユーザーまたはID3ユーザーのどちらか1人の計4人が同時にアクセスできます。複数ユーザーがアクセスしている場合は、画面上に接続ユーザーの人数が表示されます。

接続例

付属のフェライトコアをイーサネットケーブルに取り付けて、LANカードに接続してください。

ご注意

LANカードを抜き差しする場合は、必ずHSR-X200本体の電源をOFFにした状態で作業を行なってください。

設定

必要な設定をメインメニュー2の「5. ネットワーク設定」で行います。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（19ページ）をご覧ください。

<ネットワーク設定>

ネットワークカード	：	ＬＡＮ1
ネットワーク操作	：	入（接続表示：切）
ＩＰアドレス	：	192.168.　0.　1
サブネットマスク	：	255.255.255.000
ゲートウェイ	：	0.0.0.0
ポート	：	00080
ID		パスワード（4-8）
ID1	：	1111----
ID2	：	2222----
ID3	：	3333----

ネットワークカード：使用するLANカードの種類を選択します。
設定は、ネットワークインターフェースの仕様によって異なります。

LAN1：COREGA FEtherPCC-TXDまたは相当品（100BASE-TX/10BASE-Tタイプ）

LAN2：COREGA FEtherPCC-TDまたは相当品（10BASE-Tタイプ）

◆使用できるLANカードについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

ネットワーク操作：ネットワークを介したコントロールを許可するとき、「入」を選択します。2種類の「入」モードを選択できます。

入（接続表示:入）:ネットワーク接続中は、本体側のモニターに常にメッセージ「ネットワーク接続中」が表示されます。また、ネットワークから再生を行なうと、本体側のモニターにも再生画像が表示されます。

入（接続表示:切）:ネットワーク接続中でも、本体側のモニターにメッセージは表示されません。また、ネットワークから再生を行なっても、本体側のモニターには常にライブ画像が表示されます。本体の再生ボタンも点灯しません。

切: ネットワークコントロール不可（初期値）

IPアドレス：本機にアクセスするためのアドレスを設定します。
有効なアドレスにについてはシステム管理者に相談してください。

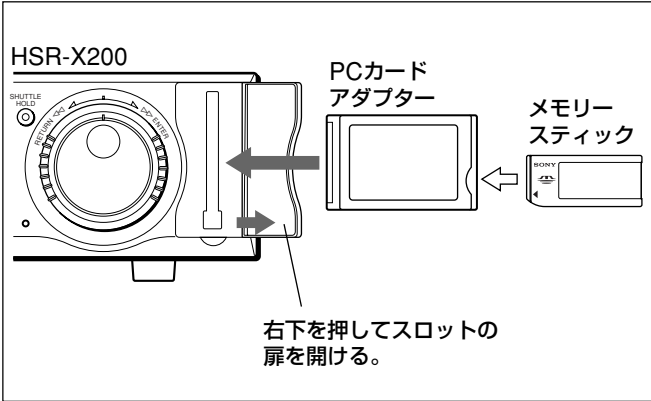
サブネットマスク/ゲートウェイ/ポート：接続するネットワークに応じた値に設定します。

ID/パスワード：ネットワークアクセス用のID（4〜8桁の英数字）を設定します。
ID1、ID2、ID3の3レベルのパスワードを設定できます。それぞれ操作できる機能が異なります。

ID1：カメラ入力/再生画像のモニターとアクセス時に実行中だった再生の停止のみが許可されます。
ID2：再生やデータの保存に関連する操作が許可されます。記録操作とメニュー操作はできません。
ID3：ブラウザ画面に表示されるボタンの操作がすべて許可されます。

データ保存デバイスの接続

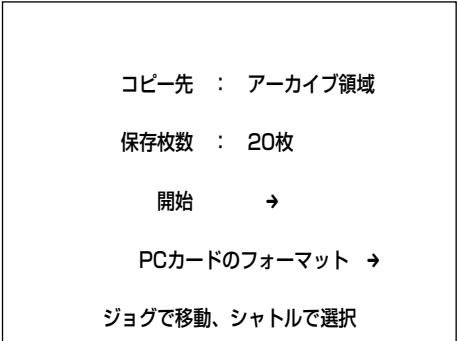
メモリースティック

前面のPCカードスロットに市販のPCカードアダプターを装着することにより、メモリースティックへのデータコピーが可能になります。

メモリースティックをフォーマットするには

メモリーカードをフォーマットすることによって、以前に保存されたデータをすべて消去して使用することができます。
フォーマットは「コピー設定画面」で行います。

1 本機に装着したPCカードアダプターに、初期化したいメモリースティックを差し込む。

2 本機を静止画モードにして、COPYボタンを押す。

「コピー設定画面」が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してカーソルを「PCカードのフォーマット」に合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

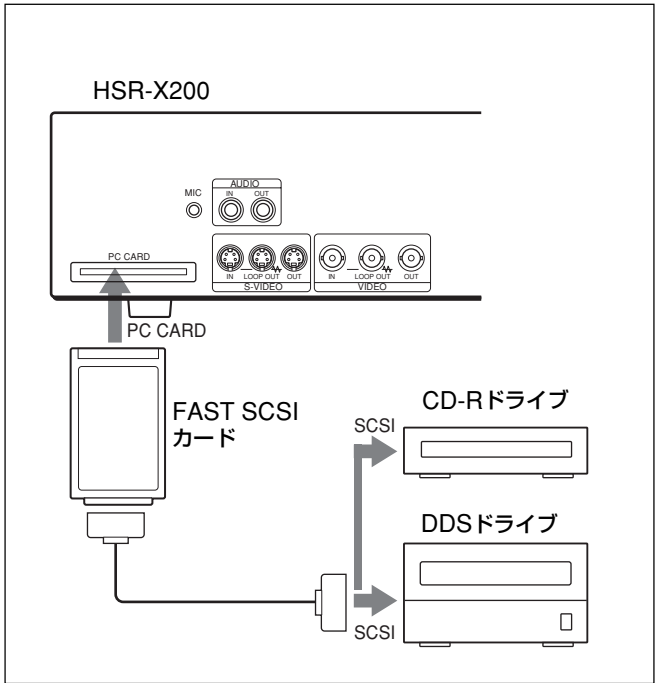
確認メッセージが表示されます。

4 ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

メモリーカードのフォーマットが始まります。
フォーマット中は、フォーマットの進捗状態が表示されます。

フォーマットが終了すると終了メッセージが表示され、COPYボタンのインジケーターが消灯します。

CD-Rドライブ/DDSドライブ

後面のPCカードスロットにオプションのFAST SCSIカードを装着します。
CD-Rドライブを接続することによって、画像データをCD-Rにコピーすることができます。DDSドライブ（DDS-2またはDDS-3タイプ）を接続した場合は、アーカイブ領域の全データのバックアップ・復元が可能になります。
SCSIカード：ADAPTEC SlimSCSI 1460または相当品
◆使用できるCD-Rドライブ、DDSドライブについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

メニュー設定の保存/復元

メニューで設定した内容を、メモリースティックへコピーして保存したり、メモリースティックに保存された設定内容を本体に読み込んで復元することができます。

メニュー設定内容を保存するには

1 本機に装着したPCカードアダプターに、メモリースティックを差し込む。

2 MENUボタンを押し、メインメニュー1を表示させる。

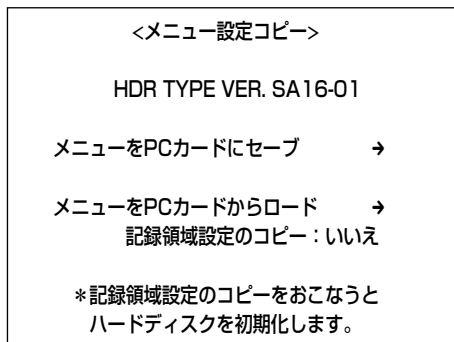
3 「メニュー設定コピー」画面が表示されるまで、SHUTTLE HOLDボタンを押す（3秒以上）。

```
<メニュー設定コピー>

HDR TYPE VER. SA16-01

メニューをPCカードにセーブ　　　→

メニューをPCカードからロード　　→
　　記録領域設定のコピー：いいえ

＊記録領域設定のコピーをおこなうと
ハードディスクを初期化します。
```

4 ジョグダイヤルを回して「メニューをPCカードにセーブ」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。

5 ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

セーブが始まります。
セーブ中は、画面にセーブの進捗状況が表示されます。
セーブが終了すると、終了メッセージが表示されます。

開始前にセーブをキャンセルするには
シャトルダイヤルを左に回します。
開始後は中止できません。

メニュー設定内容をロードするには

メモリースティックに保存されたメニュー設定をロードすることによって、以前の設定状態を復元することができます。
但し、「記録領域設定」（49ページ）の内容をコピーすると、ハードディスクが初期化されるため、この項目のみ独立してロードするかどうかを指定します。

1 設定が保存されたメモリースティックを、本機に装着したPCカードアダプターに差し込む。

2 MENUボタンを押し、メインメニュー1を表示させる。

3 「メニュー設定コピー」画面が表示されるまで、SHUTTLE HOLDボタンを押す（3秒以上）。

4 「記録領域設定」の内容も併せてロードする場合は：
(1) ジョグダイヤルを回してカーソルを「記録領域設定のコピー」に合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。
(2) ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

ご注意
「記録領域設定のコピー」を行うと、画像データはすべて失われます。

5 ジョグダイヤルを回してカーソルを「メニューをPCカードからロード」に合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。
手順**4**で「記録領域設定のコピー」を「はい」に設定した場合は、警告メッセージが表示されます。

6 ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

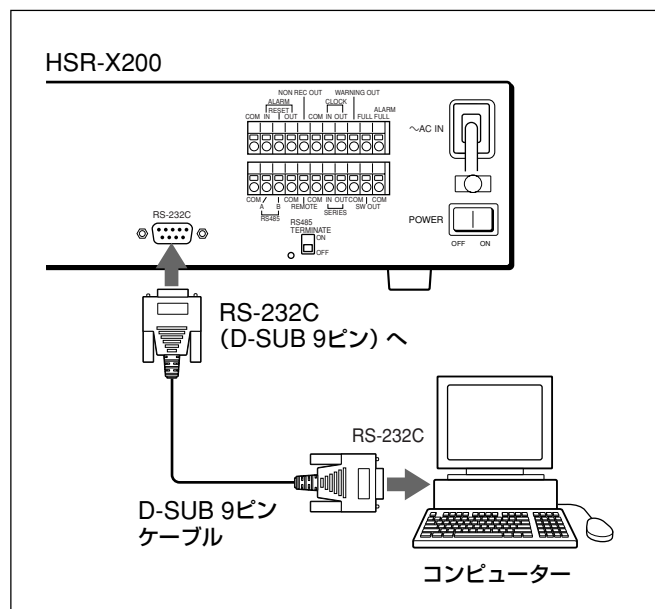
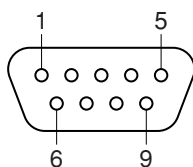
ロードが始まります。
ロード中は、画面にロードの進捗状況が表示されます。
ロードが終了すると、終了メッセージが表示されます。

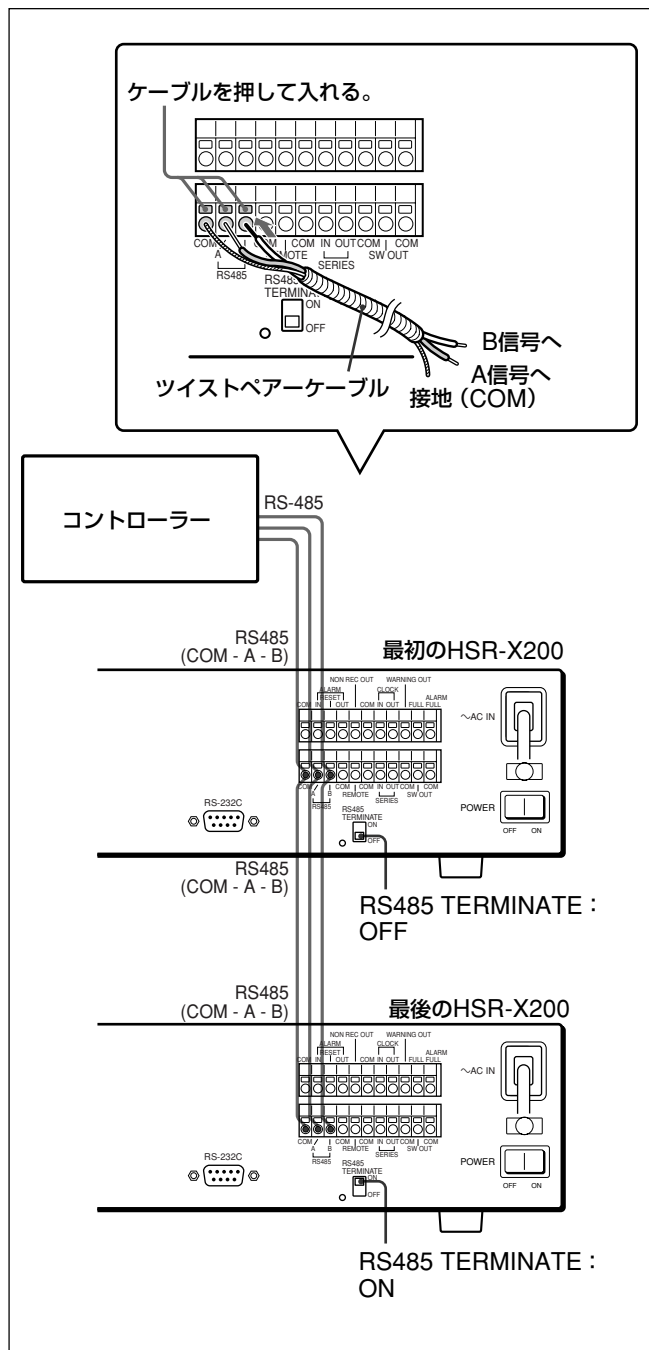
開始前にロードをキャンセルするには
シャトルダイヤルを左に回します。
開始後は中止できません。

リモートコントロールの接続と設定

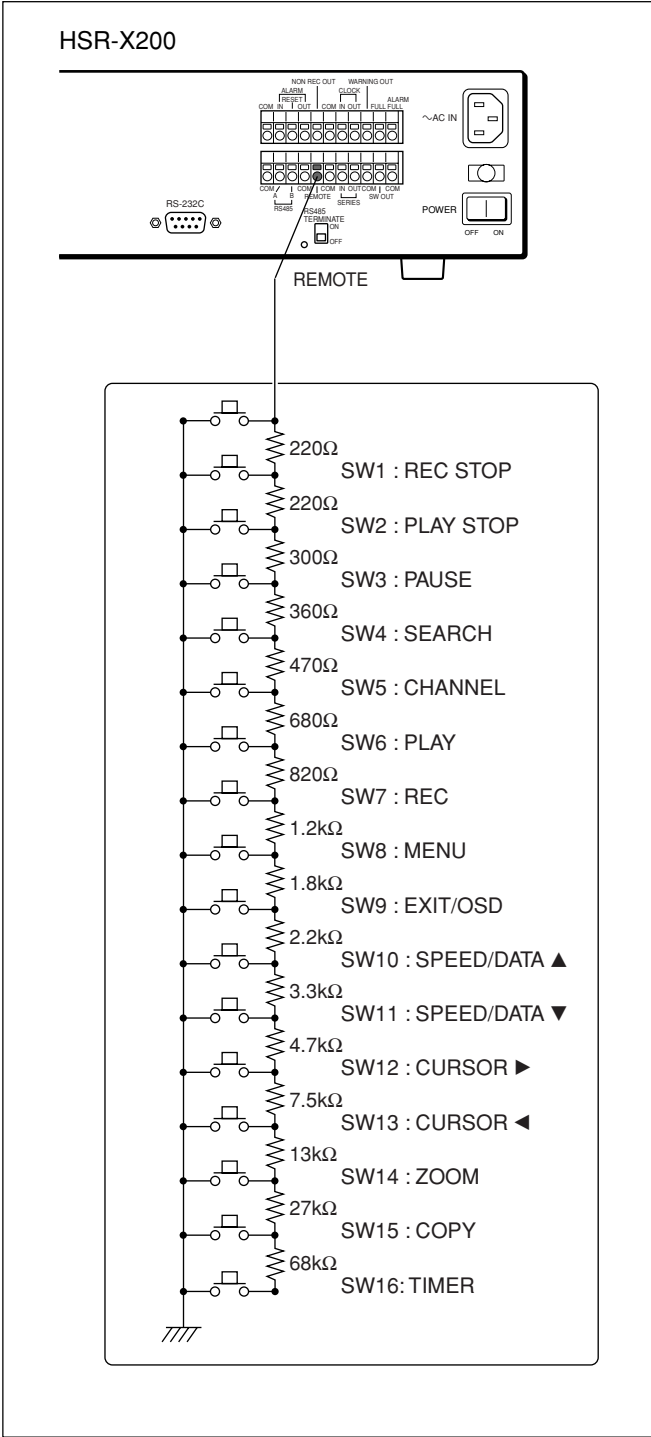
RS-232CまたはRS-485インターフェース、REMOTE端子に接続した外部回路を介して本機をリモートコントロールすることができます。

接続例

RS-232C端子

RS-232C端子のピン配列 (D-SUB 9ピン)

ピン番号	信号	機能	方向
2	RxD	データ受信	PC → HSR
3	TxD	データ送信	HSR → PC
5	GND	信号アース	
7	RTS	送信要求	HSR → PC

RS485端子

REMOTE端子

リモートコントローラーを設置するときは、下記のような配線をしてください。入力はLOWに設定してください。

設定

RS-232CまたはRS-485インターフェースを使用するときは、必要な設定をメインメニュー2の「2. RS-232C/RS-485設定」で行います。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（19ページ）をご覧ください。

<RS-232C／RS-485設定>

コントロール	:	RS-232C
データスピード	:	19200
ステータス	:	入
アラーム	:	入
アドレス	:	003

コントロール： RS-232CかRS-485を選択します。

データスピード： 通信速度を設定します。2400/4800/9600/19200から選択できます。

ステータス： 本機のステータス情報を送信するときはONに設定します。

アラーム： 本機のアラーム情報を送信するときはONに設定します。

アドレス： RS-485を使用する場合、アドレス（1～127）を設定します。

◆RS-232CおよびRS-485のコマンドについては、「コマンド」（68ページ）をご覧ください。

ハードディスクの増設とミラーリングの設定

別売りのハードディスクドライブHSBK-X201を装着して、内蔵ハードディスクを増設することができます。増設したハードディスクは、初期化後に使用可能になります。

◆装着については、ソニーの担当者にご相談ください。

増設後のハードディスクの初期化

増設後に本機の電源を入れると、自動的に「ハードディスク設定」画面が表示され、増設されたディスクの行に「新」が表示されます。

```
<ハードディスク設定>
  ディスク1  :  80GB      初期化 →
  ディスク2  :  80GB  新  初期化 →

 増設したハードディスクの初期化を行ってください。
 警告：記録済み情報は全て消去されます。
      ミラーリング      ：  切
      再生用ディスク    ：  ディスク1
 注意：ミラーリングを入にすると
      記録可能速度が制限されます。
 →次へ
```

シャトルダイヤルを右に回すと、反転表示された側のディスクの初期化が始まります。

ミラーリングの設定

HDDが2台搭載された場合、両方のハードディスクに同じデータを記録する「ミラーリング」を設定することも可能です。
設定は「ハードディスク設定」画面で行います。

ミラーリング： ミラーリング記録するときは「入」に設定します。

再生用ディスク： ミラーリング記録されたデータを再生するとき、どちらのHDDから読み出すかを指定します。

ご注意

ミラーリング記録では、「ミラーリング」欄を「入」に設定すると、設定可能な最高記録周期が0.1秒（10フィールド / 秒)に制限されます。また、それに伴い記録可能時間が変更される場合がありますので、メニューの「通常記録設定」と「アラーム記録設定'」で記録可能な時間とアラーム回数を確認してください。

既存のハードディスクから増設ハードディスクへデータをコピーするには

既存のハードディスクから増設したハードドライブに、画像データをコピーすることができます。

1 「ミラーリング」を「入」にし、「再生用ディスク」に既存のドライブを指定して、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。

2 ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

既存ディスクから新しく増設したディスクへのコピーが始まります。
コピー中は、画面にコピーの進捗状況が表示されます。
コピーが終了すると、終了メッセージが表示されます。

メニューでのハードディスクの初期化

ハードディスクの初期化は、必要に応じてメインメニュー2の「6. ハードディスク設定」で行うこともできます。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（19ページ）をご覧ください。

```
<ハードディスク設定>
       ディスク1           ：  80GB
       ディスク2           ：  --GB
       初期化                  →
 警告：記録済み情報は全て消去されます。


       ミラーリング        ：  切
       再生用ディスク      ：  ディスク1
 注意：ミラーリングを入にすると
       記録可能速度が制限されます。
```

「初期化」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回します。初期化が始まります。

初期化が終わると、ディスク2の容量が表示されます。

本機では、記録・再生の前に必要な基本的な設定を、メニューを使用して実行することができます。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」(19ページ)をご覧ください。

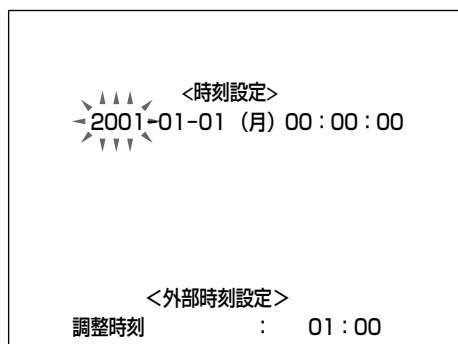
時計を設定する

内蔵の時計を設定します。
設定は、メインメニュー1の「時刻設定」で行います。
CLOCK IN/OUT端子の設定もこの画面で行います。

内蔵の時計を設定するには

1 ジョグダイヤルを回して「時刻設定」の下にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

左端の年設定欄が点滅します。

<時刻設定>
2001-01-01 (月) 00：00：00

<外部時刻設定>
調整時刻　：　01：00

2 ジョグダイヤルを回して年を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

右の月設定欄が点滅します。

3 同様に月、日、時、分の順番で設定する。

曜日は自動的に設定されます。
秒は、分を設定した時点で0リセットされます。

CLOCK OUT/CLOCK IN端子を使用して時刻を合わせるには

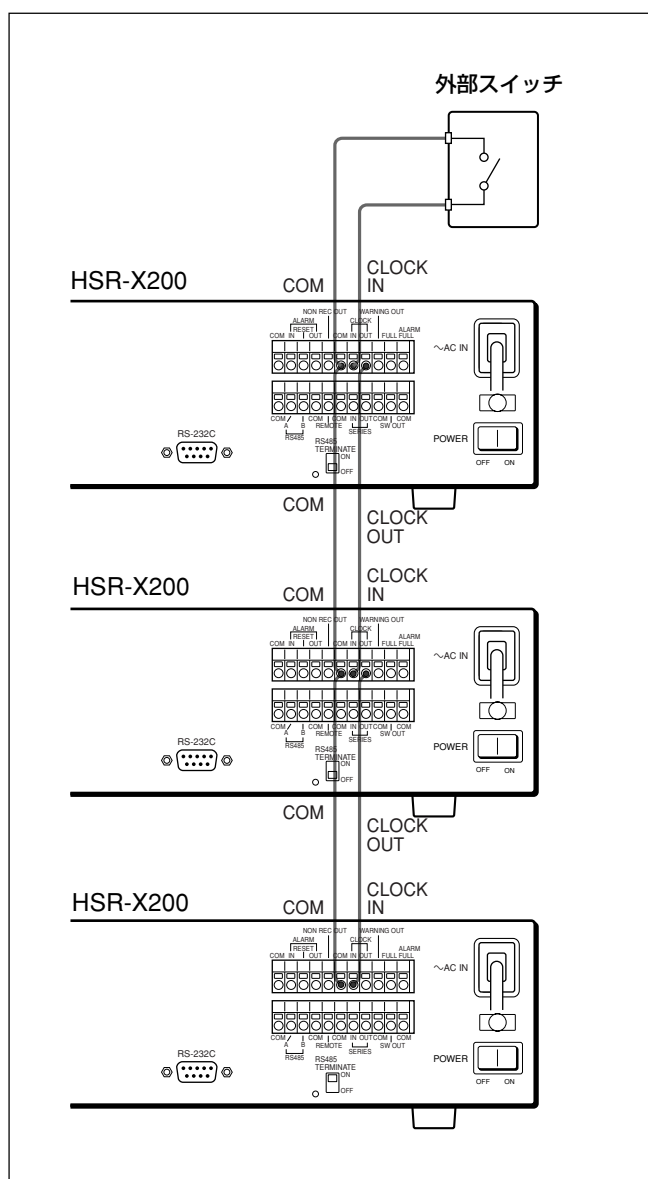
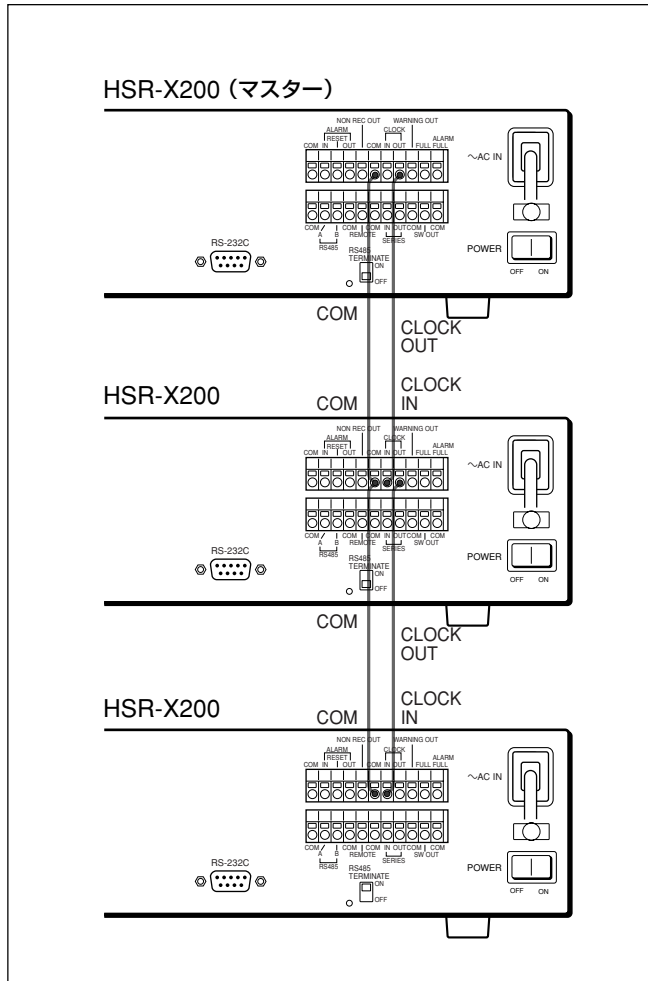
後面パネルのCLOCK OUT/CLOCK IN端子を使用して時刻合わせを行いたいときは、「外部時刻設定」の「調整時刻」を設定します。

ここで設定した時刻になると、CLOCK OUT端子の出力が0Vになります。
また、CLOCK IN端子がGNDに落ちる(COM端子とショートする)と、内蔵時計がここで設定された時刻に設定され、同時にCLOCK OUT端子の出力が0Vになります。

すべての設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

CLOCK OUT/CLOCK IN端子の接続例

(1) 外部スイッチなどを使用する場合

(2) 1台のHSR-X200をマスターにする場合

記録領域を設定する

通常記録領域、アラーム記録領域、アーカイブ領域には、デフォルトでそれぞれ80%、19%、1%の領域が割り当てられています。割り当てを変更したり、領域全体をリセットすることができます。また、通常記録領域およびアラーム記録領域では、それぞれいっぱいになったときに記録を中止するか、上書きするかを選択することもできます。

記録領域を変更するには

それぞれの領域をメインメニュー1の「記録領域設定」で変更することができます。

ご注意

領域を変更すると、それ以前の記録は失われます。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1を呼び出す。

2 「3. 記録領域設定」を選択する。

記録領域設定画面になり、現在の設定が表示されます。

<記録領域設定>

全容量	:	80GB
通常記録領域	:	80%
記録再開許可	➔	
アラーム記録領域	:	19%
記録再開許可	➔	
アーカイブ領域	:	1%
記録再開許可	➔	

警告：設定を変更するとすべての内容が
初期化されます。

3 ジョグダイヤルを回して変更したい領域にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回して選択を確定する。

現在の値が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の値に設定し、シャトルダイヤルを右に回して設定を確定する。

通常記録領域、アラーム記録領域ごとに設定できます。合計で99%までの値を設定します。
アーカイブ領域の容量は、通常記録領域、アラーム記録領域の設定に応じて自動的に算出されます（1〜15%）。

確認メッセージが表示されます。

5 領域変更を実行するときは「はい」を選択して、シャトルダイヤルを右に回す。

取り消すときは「いいえ」を選択します。

記録領域をリセット（記録再開許可）するには

それぞれの領域をリセットすることができます。

ご注意

通常記録領域およびアラーム記録領域は、上書き記録が「切」になっている場合にのみリセットできます（上書き記録については次項参照）。
特定のデータのみを削除することはできません。

1 記録領域設定画面でリセットしたい領域の「記録再開許可」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを回す。

確認メッセージが表示されます。

2 リセットを実行するときは「はい」を選択して、シャトルダイヤルを右に回す。

取り消すときは「いいえ」を選択します。

記録領域に上書きするには

通常記録領域およびアラーム記録領域では、それぞれいっぱいになったときに記録を中止するか、上書きするかを選択することができます。
設定は、メインメニュー1の「記録設定」で行います。
この画面では、記録領域の残量が少なくなったときのアラームの設定も行います。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1を呼び出す。

2 「4. 記録設定」を選択する。

記録設定画面になり、現在の設定が表示されます。

```
<記録設定>
シリーズ記録              ：  入



通常記録領域
  上書き記録              ：  切
アラーム記録領域
  上書き記録              ：  切

ディスク残量警告          ：  1%
```

3 ジョグダイヤルを回して変更したい領域の「上書き記録」の行にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定（デフォルト：切）が点滅します。

4 上書きするときは「上書き記録」を「入」に設定して、シャトルダイヤルを右に回す。

残量警告の容量を変更するには

「上書き記録」が「切」のときは、通常記録領域またはアラーム記録領域の残量が設定した値以下になると、前面のFULLまたはALARM FULLインジケーターが点滅し、後面のFULLまたはALARM FULL端子からアラーム信号が出力されします。
設定は、記録設定画面で行います。

1 ジョグダイヤルを回して「ディスク残量警告」の行にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定（デフォルト：1）が点滅します。

2 ジョグダイヤルを回して希望の値に設定し、シャトルダイヤルを右に回す。

デフォルトの1%から最大10%までの範囲で変更することができます。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

画面表示データを選択する

モニター画面にスーパーインポーズされるデータを個別に入/切することができます。
入/切は、メインメニュー2の「データ表示/無信号検出設定」で行います。

◆データについては、「画面表示データ」(18ページ)をご覧ください。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1を呼び出し、もう一度MENUボタンを押してメインメニュー2に切り替える。

2 「1. データ表示/無信号検出設定」を選択する。

「データ表示/無信号検出設定」画面になります。

<データ表示設定>

項目		設定
日付	：	入
時刻	：	入
記録画質	：	入
記録周期	：	入
アラーム回数	：	入
アラームタイプ	：	入

<無信号検出設定>

項目		設定
無信号検出	：	入

3 ジョグダイヤルを回して設定したい項目にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して入/切を切り替え、シャトルダイヤルを右に回す。

手順**3**、**4**を繰り返す。

「無信号検出」を「入」にしておくと、本機に映像入力が供給されないと、モニター画面に警告メッセージが表示されます。

5 設定が終わったら、EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除する。

ブザーを設定する

動作確認や警告のためのブザー音を、条件ごとに入/切することができます。
入/切は、メインメニュー2の「ブザー設定」で行います。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1を呼び出し、もう一度MENUボタンを押してメインメニュー2に切り替える。

2 「3. ブザー設定」を選択する。

「ブザー設定」画面になります。

<ブザー設定>

項目		設定
アラーム入力	：	入
ディスク容量警告	：	入
ディスクエラー	：	入
ロック警告	：	入
キーイン	：	切
無録画	：	切

アラーム入力： アラームが発生したとき

ディスク容量警告： 通常記録領域またはアラーム記録領域の残量が設定値以下にがなったとき

ディスクエラー： ハードディスクのエラーが発生したとき

ロック警告： セキュリティロックされているときに操作ボタンが押されたとき

キーイン： 操作ボタンが押されたとき

無録画： 記録が中断されたとき

3 ジョグダイヤルを回して設定したい項目にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して入/切を切り替え、シャトルダイヤルを右に回す。

手順**3**、**4**を繰り返す。

5 設定が終わったら、EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除する。

セキュリティロックを設定する

本機では、パスワードを設定することによって、セキュリティロックを設定できます。
設定はメインメニュー2の「セキュリティロック設定」で行います。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1を呼び出し、もう一度MENUボタンを押してメインメニュー2に切り替える。

2 「4. セキュリティロック設定」を選択する。

「セキュリティロック設定」画面になります。

```
<セキュリティロック設定>
レベル　　パスワード（4-8）入/切
管理者　　AJE23535　　　　切
使用者　　1593　　　　　　切

記録操作権限　　　　　：　管理者
```

「入/切」と「記録操作権限」の設定によってセキュリティロック動作が異なります（右段の表参照）。

3 「管理者」のパスワードを設定する。

4から8桁の英数字を設定します。ジョグダイヤルで英数字を選択しシャトルダイヤルで確定して次の桁に移動します。

4 「入/切」欄を「入」に設定して、シャトルダイヤルを右に回す。

管理者のパスワードが有効になります。

5 同様に「使用者」のパスワードを設定し、「入/切」欄を「入」に設定して、シャトルダイヤルを右に回す。

使用者のパスワードが有効になります。

ご注意

使用者のみを「入」にすることはできません。管理者を「切」にすると使用者も「切」になります。

6 「記録操作権限」で記録動作のロックレベルを選択する。

使用者： 管理者だけでなく使用者も記録操作が可能
管理者： 管理者のみが記録操作を行い、使用者は再生操作のみ可能

ジョグダイヤルを回して選択して、シャトルダイヤルを右に回して確定します。

7 設定が終わったら、EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除する。

セキュリティロックを有効にするには

メニューモードを解除してからSHUTTLE HOLDボタンを3秒以上押します。
メニューでの設定に従ってセキュリティロックがかけられ、LOCKインジケーターが点灯します。

ご注意

再生モードからセキュリティロックをかけることはできません。

セキュリティロックがかけられると

メニューの設定によって、操作が次のように制限されます。

管理者設定	使用者設定	記録操作権限	セキュリティロック動作
入	入	管理者	すべての操作がロックされる。使用者のパスワードで再生系の操作のみが可能になり、管理者のパスワードですべての操作が可能になる。
入	入	使用者	すべての操作がロックされる。使用者のパスワードで再生系/記録系の操作が可能になり、管理者のパスワードですべての操作が可能になる。
入	切	管理者	記録系とメニュー操作がロックされる。再生系の操作はロックされない。管理者のパスワードですべての操作が可能になる。
入	切	使用者	メニュー操作のみがロックされる。再生系/記録系の操作はロックされない。管理者のパスワードですべての操作が可能になる。
切	切	管理者	すべての操作が可能（デフォルト設定）
切	切	使用者	すべての操作が可能

パスワードの入力が必要な場合、ブザーが鳴り、モニター画面がパスワード入力画面になります。

Web操作

別売りのネットワークカードを介してネットワークに接続し、Webブラウザを使用して本機を操作することができます。

動作環境

ネットワークを介してHSR-X200を操作するには、次のような環境が必要です。

コンピューター： Pentium III 400 MHz、64 MB以上

OS： Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0 ServicePack 6a 以降、Windows 2000、Windows XP

Webブラウザ： Internet Explorer 5.0以上

◆接続とHSR-X200側の設定については、「ネットワークへの接続と設定」（44ページ）をご覧ください。

ご注意

ネットワーク接続時にPC上のブラウザソフトの設定がProxy ONの場合、ダウンロードした画像に抜けや部分的な欠落が発生することがあります。プロキシサーバーの機種設定によっては、これら以外にも様々な現象が発生する可能性があります。これらを回避するために、Proxy OFF設定で使用されることをお勧めします。

HSR-X200へのアクセス

1 Internet Explorerを起動する。

2 アドレスボックスに次のように入力し、Enterキーを押す。

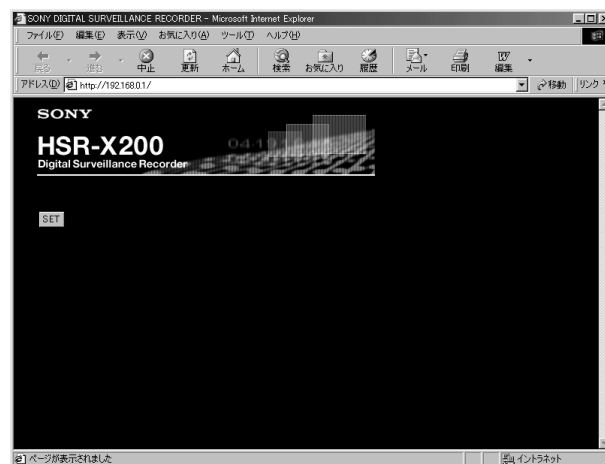
http：//<HSR-X200のIPアドレス>/

HSR-X200のIPアドレスは、HSR-X200のメインメニュー2の「ネットワーク設定」で設定したIPアドレスです。
Network Password入力ウィンドウが開きます。

ご注意

他のPCがアクセスしているHSR-X200や接続が許可されていないHSR-X200にアクセスしようとすると、エラーメッセージが表示されます。

3 メインメニュー2の「ネットワーク設定」で設定したパスワードを入力し、OK をクリックする。

パスワードが認証されると、HSR-X200の画面が表示されます。

ご注意

入力したパスワードによって操作できる機能が異なります。

ID1のパスワードでアクセスしたとき： カメラからのライブ画像の閲覧のみが許可されます。

ID2のパスワードでアクセスしたとき： ライブ画像、再生画像の閲覧と、サーチやデータの保存に関連する操作が許可されます。記録操作およびメニュー操作はできません。

ID3のパスワードでアクセスしたとき： ブラウザ画面に表示されるボタンの操作がすべて許可されます。

ID1またはID2でアクセスした場合、許可されていない機能を操作しようとすると、警告メッセージが表示されます。

4 SET ボタンをクリックする。

HSR-X200のWeb操作画面が表示されます（次ページ）。
「ネットワーク設定」（44ページ）で「入(接続表示：入)」に設定してある場合は、HSR-X200側のモニター画面には、「ネットワーク接続中」が表示されます。
アクセスした時点で実行中の動作は継続されます。

ご注意

- ネットワーク接続中はHSR-X200側での操作はできません。ネットワークを切断すると操作可能になります。
- PC側と2分以上通信がない場合、自動的にネットワークが切断されます。

HSR-X200側でネットワークを切断するには

EXIT/OSDボタンを2秒以上押します。

Web操作画面

❶ ステータス表示エリア

動作モード(ライブ／再生)：HSR-X200が停止状態または記録モード時は「ライブ」、再生モード時は「再生」が表示されます。

日時：停止状態または記録モード時は現在の日時、再生モード時は再生画像が記録された日時が表示されます。

通常記録モード：通常記録/タイマー記録のステータスが表示されます。

- **停止：** 記録停止中
- **記録中：** 通常記録実行中
- **タイマー待機：** タイマー記録待機中
- **タイマー記録：** タイマー記録実行中
- **残量なし：** 通常記録領域の残量がない

アラーム記録モード：アラーム記録のステータスが表示されます。

- **停止：** 記録停止中
- **プリアラーム記録：** プリアラーム記録実行中
- **アラーム記録：** アラーム記録実行中
- **残量なし：** アラーム記録領域の残量がない

再生領域：再生モードになると再生中の画像の種類が表示されます。

- **アラーム：** アラーム記録
- **プリアラーム：** プリアラーム記録
- **通常：** 通常記録
- **アーカイブ：** アーカイブ領域の保存データ

速度： 再生モードでは再生のステータスが表示されます。

再生： 正方向標準再生

一時停止： 静止画再生

キュー： 正方向高速再生

スロー： 正方向低速再生

逆再生： 逆方向標準再生

レビュー： 逆方向高速再生

逆スロー： 逆方向低速再生

❷ 画像表示エリア

HSR-X200が停止状態または記録モード時は現在のカメラ入力画像、再生モード時は再生画像が表示されます。

表示速度、サイズ、表示画質のそれぞれを、ドロップダウンリストから選択して[セット]をクリックすることによって変更することができます。

表示速度： 画像の読み込み周期を選択します。

1：1000 ms

2：500 ms

3：250 ms

4：100 ms

5：25 ms

サイズ： 表示画像サイズを選択します。

1：320×240ピクセル

2：400×300ピクセル

3：640×480ピクセル

4：800×600ピクセル

5：1024×768ピクセル

6：1280×960ピクセル

表示画質： 画質を選択します。（ライブ時のみ表示されます。）

1：LOWモード相当

2：MIDモード相当

3：HIGHモード相当

❸ チャンネル選択欄（アクセス権：ID2/ID3）

本機でチャンネル情報をデコード可能なマルチプレクサーが接続されているときのみ、有効です。

ドロップダウンリストから表示するチャンネルを選択し、[セット]をクリックします。

❹ 操作ボタン

ボタンアイコン	ボタン名	機能	アクセス権		
			ID1	ID2	ID3
	前のイベント	アラーム記録された画像を再生中にクリックすると、ひとつ前のアラーム記録にスキップする（本体のALARM ⏮ ボタン相当）	無	有	有
	次のイベント	アラーム記録された画像を再生中にクリックすると、次のアラーム記録にスキップする（本体のALARM ⏭ボタン相当）	無	有	有
	スピードダウン	再生速度を1段階落とす（再生中に本体のジョグダイヤルを左に回すのと同じ動作）	無	有	有
	スピードアップ	再生速度を1段階あげる（再生中に本体のジョグダイヤルを右に回すのと同じ動作）	無	有	有
	逆再生	逆方向に再生する	無	有	有
	再生停止	再生を停止する	有	有	有
	再生	再生を開始する	無	有	有
	前の画像	静止画モードでクリックすると、ひとコマ前の静止画が表示される（静止画モードで本体のジョグダイヤルを左に回すのと同じ動作）	無	有	有
	一時停止	静止画モードにする	無	有	有
	次の画像	静止画モードでクリックすると、ひとコマ次の静止画を表示する（静止画モードで本体のジョグダイヤルを右に回すのと同じ動作）	無	有	有
	記録	記録を開始する	無	無	有
	記録停止	記録を停止する	無	無	有
	タイマー	タイマー記録をon/offする	無	無	有
	サーチ	画像を検索する	無	有	有
	コピー	画像データをコピーする	無	有	有
	ダウンロード	画像データをダウンロードする	無	有	有
	メニュー設定	メニュー設定を行う	無	無	有
	切断	ネットワークを切断する	有	有	有

画像の検索

ID2またはID3でアクセスした場合は、画像の検索が可能です。（サーチ）をクリックすると、サーチモード選択画面が表示されます。

実行したいサーチモードを選択します。

1. アラームサーチ

アラーム記録領域に記録された画像をリストから検索します。

◆本体で「アラームサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（39ページ）。

リストの切り替えは［前］/［次］ボタンで行います。
リスト番号のボタンをクリックするとプリビュー画像が表示され、プリビュー画像の上をクリックするとメイン画面に戻り、選択した画像が画像表示エリアに表示されます。

2. アラームサムネイルサーチ

アラーム記録領域に記録された画像をサムネイル画像で検索します。

◆本体で「アラームサムネイルサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（39ページ）。

サムネイル画像の切り替えは［前］/［次］ボタンで行います。
サムネイル画像の上をクリックするとメイン画面に戻り、選択した画像が画像表示エリアに表示されます。

ご注意

すべてのサムネイル画像（9画面）が表示される前に、［前］/［次］ボタンでページ切り換えを繰り返すと、アラーム番号がランダムに表示される場合があります。これは番号が連続しないだけで、誤表示ではありません。ページ送りは9画面が完全に表示された後に行なってください。

3. 日時サーチ

通常記録領域に記録された画像を記録日時で検索します。

◆本体で「日時サーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（40ページ）。

「サーチ」のドロップダウンリストで記録日時を指定して［プリビュー］をクリックすると検索を実行し、プリビュー画像を表示します。
プリビュー画像の上をクリックするとメイン画面に戻り、選択した画像が画像表示エリアに表示されます。

ご注意

指定した日時に合致するイベントがない場合は、最も近い日時の画像が表示されます。

4. アーカイブ領域サーチ

アーカイブ領域に保存されている画像を検索します。

◆本体で「アーカイブ領域サーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（40ページ）。

リストの切り替えは［前］/［次］ボタンで行います。
リスト番号のボタンをクリックするとプリビュー画像が表示され、プリビュー画像の上をクリックするとフル画面表示になります。

5. アクティビティーディテクションサーチ

アクティビティーセンサーを使用して画像を検索します。

◆本体で「アクティビティーディテクションサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（41ページ）。アクティビティーセンサーの設定も同一画面上で行えます。

検索開始日時と終了日時は、それぞれドロップダウンリストで設定し、［セット］をクリックして設定できます。
［プリビュー］をクリックすると検索が行われ、該当する画像のプリビュー画像が表示されます。
画像をクリックすると検索した画像から再生が開始されます。

センサーのON/OFF

センサーをONにしたい位置に対応する升目の上をクリックして、チェックマーク（▮）をつけます。
OFFにするときは、再度クリックしてチェックマークを消してください。

画像のコピーとダウンロード

ID2またはID3でアクセスした場合は、HSR-X200の通常記録領域またはアラーム記録領域の画像をアーカイブ領域にコピーしたり、PCにダウンロードすることができます。
通常記録領域またはアラーム記録領域に記録されている画像は、自動的にいったんアーカイブ領域にコピーしてからダウンロードされます。アーカイブ領域から直接PCへダウンロードすることもできます。

画像をコピーする

1 コピーしたい画像を静止画モードで表示させる。

連続する画像をコピーするときは先頭の画像を表示させてください。

2 （コピー）をクリックする。

コピー画面になります。

3 コピーする枚数を設定し、[開始]をクリックする。

コピー実行中は「コピー中」が表示されます。
コピーが終了すると、「コピー終了」が表示されます。

コピーモードを抜けるには

（再生停止）をクリックします。

画像をダウンロードする

1 ダウンロードしたい画像を静止画モードで表示させる。

連続する画像をコピーするときは先頭の画像を表示させてください。

2 (ダウンロード) をクリックする。

ダウンロード画面になります。

3 ダウンロードする枚数を設定し、[開始] をクリックする。

記録保存領域の画像が表示されているときは、ただちにダウンロードが始まります。
アーカイブ領域またはアラーム記録領域の画像が表示されている場合は、あらかじめアーカイブ領域にコピーしてからダウンロードを開始します。

ご注意

ネットワーク経由でPCへダウンロードを行なう場合、最大1,000枚までダウンロードすることが可能です。ただし、WindowsのOS、CPUのスピード、Internet Explorerのバージョンによって転送時間が異なります。5分以上経過した場合は転送が切断され、転送が完了しません。その場合は、ダウンロードする画像の枚数を少なくして、再度ダウンロードを行なってください。

ダウンロードが始まるとイメージビューワー画面に切り替わり、ダウンロード中（ダウンロード後）の画像を確認することができます。

ご注意

- 1台のPCで2つのブラウザを使用して2台のHSR-X200をネットワーク接続している場合、同時にダウンロードを行なわないようにご注意ください。2台目のダウンロードウィンドウを起動しようとすると、1台目のダウンロードウィンドウが強制的に閉じられてしまいます。
- ダウンロード中は、再生系の操作を受け付けない仕様になっています。ただし、ネットワークのレスポンスが異常に遅いと、操作を受け付けてしまう場合がありますので、ダウンロード中は再生系の操作をしないようにご注意ください。こうした場合の再生については動作保証できません。

イメージビューワー

トップ： 先頭の画像を表示する。
前の画像： ひとつ前の画像を表示する。
逆再生： 逆方向に再生する。先頭の画像で停止する。
停止： 再生を停止する。
再生： 順方向に再生する。最後の画像で停止する。
次の画像： 次の画像を表示する。
終了： 最後の画像を表示する。
画像サイズ： 表示画像サイズを選択できます。
- 1：400×300ピクセル
- 2：640×480ピクセル
- 3：800×600ピクセル
- 4：1024×768ピクセル
- 5：1280×960ピクセル

再生速度： 再生速度を選択できます。
- 1：1000 ms
- 2：500 ms
- 3：250 ms
- 4：100 ms
- 5：25 ms

画像番号： 再生している画像の番号が表示されます。
時刻： 再生している画像の記録日時が表示されます。
ダウンロード数： ダウンロード中の画像の番号が表示されます。

画像の下部には、サムネイル画像が表示されます。

ダウンロードが完了すると

メッセージ「ダウンロード終了」が表示されますので、[OK]をクリックします。

ダウンロードした画像を保存するには

Internet Explorerのファイルメニューから「保存」を選択して、表示されているページを保存します。画像も同時に保存されます。
保存する場合、ファイル名を自由に設定できます。

例：ファイル名を「SONY」に設定した場合、下記のようにファイルが作成されます。
HTMLファイル: SONY.htm
ホルダー: SONY.files/SONY_files
拡張子: JPG/JPE/JPEG.

またダウンロードする画像ファイルの中に日時データを埋め込み、専用のアプリケーションソフトを使用することにより、画像の中に日時を表示したり、印刷することができます。

◆専用アプリケーションソフトについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

メニューの設定

ID3でログインした場合は、メニュー操作が可能です。
(メニュー設定)をクリックして、メニュー選択画面を呼び出し、設定したいメニューをクリックして選択します。

各メニュー画面では、各項目のドロップダウンリストから希望の設定値を選択し、[セット]または[保存]ボタンをクリックすることによって設定を行います。

1. **時刻設定：** HSR-X200の内蔵時計を設定します。
   ◆本体メイン メニュー1の「時刻設定」と同様に設定します(50ページ)。

2. **外部時刻設定：** 外部時計合わせに必要な設定を行います。
   ◆本体メイン メニュー1の「時刻設定」と同様に設定します(50ページ)。

3. **映像入力/プリリバース再生設定：** 接続するマルチプレクサーのタイプやプリリバース再生時間を設定します。
   ◆本体メイン メニュー1の「映像入力設定/プリリバース再生」と同様に設定できます (35ページ、43ページ)。

4. **記録領域設定：** HSR-X200内蔵のHDDの記録領域の情報を表示します。領域の割り当てを変更することはできません。[記録再開許可]ボタンは有効です。
   ◆本体メイン メニュー1の「記録領域設定」と同様に操作します (51ページ)。

5. **記録設定：** 各種の記録に関する設定を行います。本
   ◆本体メイン メニュー1の「記録設定」と同様に設定します(24ページ)。

6. **通常記録設定：** 通常記録の条件を設定します。
   ◆本体メイン メニュー1の「通常記録設定」と同様に設定します (24ページ)。

7. **タイマー設定：** タイマー記録の設定を行います。
   ◆本体メイン メニュー1の「タイマー設定」と同様に設定します (30ページ)。

8. **休日設定：** 休日の設定を行います。
   ◆本体メイン メニュー1の「休日設定」と同様に設定します(31ページ)。

9. **アラーム記録設定：** アラーム記録の条件を設定します。
   ◆本体メイン メニュー1の「アラーム記録設定」と同様に設定します (27ページ)。
   アクティビティーディテクションセンサーの設定も同じ画面上で行います。
   画面の対応する位置の升目をクリックすることによって、センサーをON/OFFすることができます。

10. **データ表示設定：** モニター画面に表示される項目をON/OFFします。
    ◆本体メイン メニュー1の「データ表示/無信号検出設定」と同様に設定できます (53ページ)。

11. **RS-232C/RS-485設定：** 本体メイン メニュー2の「RS-232C/RS-485設定」(44ページ) で設定された外部制御に関する情報を表示します。ネットワークを介して設定を変更することはできません。

12. **ブザー設定：** ブザーを鳴らす条件を設定します。
    ◆本体メイン メニュー2の「ブザー設定」と同様に設定できます(53ページ)。

13. **ネットワーク設定：** ネットワークを介して操作するための設定を行います。
    ◆本体メイン メニュー2の「ネットワーク設定」と同様に設定できます(44ページ)。
    ただし、ネットワークカードの選択、ネットワーク操作の入/切はできませんが、ネットワークスピードをドロップダウンリストから選択することができます。

14. **ハードディスク設定：** 本体メイン メニュー2の「HDD設定」(49ページ) で設定されたHDD増設時に関する情報を表示します。再生に使用するドライブの選択のみ、ネットワークを介して行えます。

15. **停電情報/使用時間：** 本体メイン メニュー2の「停電情報/使用時間」(65ページ)と同様に、停電情報や使用時間の積算値やファームウェアのバージョンを表示します。

保守・点検

トラブルシューティング

修理をご依頼になる前に、もう一度点検してください。

症状	原因	処置
モニター画像が映らない。	接続は正しいですか?	正しく接続してください。
	モニターやカメラの電源は入っていますか?	電源を入れてください。
操作ボタンを押しても動作しない。	アラーム録画が行われている。	アラーム録画終了までお待ちください。
	セキュリティロックが働いている。	セキュリティロックを解除してください。（54ページ）
	タイマー記録待機中またはタイマー記録中です。	TIMERボタンを押して、ボタンのインジケーターを消灯させてください。（31ページ）
タイマー記録ができない。	時計が正しく設定されていない。	時計を正しく合わせてください。（50ページ）
	タイマー記録が「入」になっていない。	TIMERボタンを押して、ボタンのインジケーターを点灯させてください。（31ページ） 「タイマー設定」画面で「入/切」欄が「入」になっているか確認してください。（30ページ）
日時が記録されない。	日時が非表示になっている。	EXIT/OSDボタンを押してください。（14ページ）
	日付と時刻のデータ表示が「切」になっている。	「データ表示設定」で「入」にしてください。（53ページ）
警告メッセージが消えない。	故障の可能性があります。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

システムダウン

もし本機がまったく動作しなくなったときは、次の手順を行ってみてください。

1 本機がコンセントにつながっているか確認する。

2 電源を切り、電源コードをコンセントから抜く。

3 電源コードをコンセントにつなぎなおし、電源を入れる。

4 後面パネルのオールリセットボタンを押す。

上記を行っても動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

HDD2台搭載時の異常検出

HDDを2台搭載したときHDDの異常を検出した場合、モニターに「ディスクエラー (1)」（マスター側HDD）または「ディスクエラー (2)」（スレーブ側HDD）が表示されます。ほとんどの場合アクセスしていたHDDで異常が発生するため、その時点でアクセスしていたディスクの番号が表示されますが、まれにもう一方のHDDに異常が発生している場合もありますのでご注意ください。どちらとも判別できない場合は「ディスクエラー 」と表示します。
異常検出した場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

停電情報と使用時間の確認

メインメニュー2の「停電情報/使用時間」で、停電による記録の中断があったかどうかや、HDDの累積使用時間などを確認することができます。
本機のファームウェアのバージョンも表示されます。

1 MENUボタンを押してメインメニュー1を呼び出し、もう一度MENUボタンを押して、メインメニュー2に切り替える。

2 「7. 停電情報/使用時間」を選択する。

停電情報/使用時間表示画面になります。

```
<停電情報／使用時間>
停電情報
  #002  発生日時    02-12  07：22
        回復日時    02-15  10：20

使用時間
     ディスク1      ：  00003H
     ディスク2      ：  -----H
     通電時間       ：  00358H

ファームウェア： MAIN 1.00 / SUB 1.00
```

停電情報

最新の停電発生時刻と回復時刻を表示します。

使用時間

内蔵HDDの累積使用時間と本機の累積通電時間を表示します。

ファームウェア

本機のファームウェアのバージョンを表示します。

メニューを抜けるには、EXIT/OSDボタンを押します。

保証書とアフターサービス

保証書

• この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
• 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお確かめください。特に、前項「保守・点検」に該当する項目がないか、お調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

仕様

一般

記録方式	Motion JPEG compression
信号方式	EIA標準、NTSC方式
解像度	720×240ピクセル（フィールドモード） 720×480ピクセル（フレームモード）
動作温度	5℃～40℃
動作湿度	80%以下
電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	25 W
外形寸法	420×96×376 mm (幅/高さ/奥行き)
質量	5.5 kg

映像入出力

入力	VIDEO IN: 1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型) S-VIDEO IN: Y/C分離信号（ミニDIN 4ピン）
出力	VIDEO OUT: 1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型) S-VIDEO OUT: Y/C分離信号（ミニDIN 4ピン）
ループ出力	VIDEO: 1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型) S-VIDEO: Y/C分離信号（ミニDIN 4ピン）
水平解像度	500本以上（HYPERモード）
S/N	48 dB（HYPERモード）

音声入出力

入力	－8 dBs、ピンジャック、27 k Ω、不平衡
出力	－8 dBs、ピンジャック、600 Ω、不平衡
マイク入力	－60dBs、∅3.5mmミニジャック、10 k Ω、不平衡
S/N	40 dB

アラーム/制御入出力

ALARM IN	無電圧メーク接点
ALARM RESET	無電圧メーク接点
ALARM OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
NO REC OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
CLOCK SET OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
CLOCK SET IN	無電圧メーク接点
WARNING OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
FULL OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
ALARM FULL OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
RS485 (A/B/COM)	プッシュロック式
REMOTE	抵抗ラダー式
SERIES OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
SERIES IN	ローレベル
SW OUT	＋5 V、4.8 k Ω（動作時0 V）

付属品

AC電源コード（1）
3極⟷2極変換プラグアダプター（1）
電源コード固定クリップ（1）
フェライトコア（1）
ラックマウント金具（1式）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内（1）

別売り品

ハードディスクドライブ HSBK-X201

- 本機は日本国内用ですから、放送規格の異なる外国では使用できません。
- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

コマンド

データ形式

RS-232C

データフォーマットは、次の通りです。

モード	非同期
キャラクター長	8ビット
データ伝送速度	2400、4800、9600、19200
パリティチェック	なし
ストップビット	1ビット

データ伝送速度のみHSRのメインメニュー2「RS-232C/RS-485設定」(48ページ)で設定することができます。

通信プロトコル

通信は1バイト単位で行います。コンピューターが1バイト送信した後、HSRから返ってくる返答を持って次のバイトを送信します。HSRの返答の中には、1バイトのものだけでなく、複数バイトのものもあります。

RS-232C使用時の注意

コマンドを使用するために以下の準備をしてください。
RS-232C TABLE ONコマンド(F6H)をHSRに送る
- HSRは、ACK(0AH)を返します。
- RS-232C TABLE OFFコマンド(F7H)を送るまで、HSRはコマンドを受け付けます。

RS-485

データフォーマットは、次の通りです。

モード	非同期
キャラクター長	8ビット
データ伝送速度	2400、4800、9600、19200
パリティチェック	なし
スタートビット	1ビット
ストップビット	1ビット

通信線: 2芯
通信方式: 半2重方式(Half Duplex方式)

データ伝送速度のみHSRのメインメニュー2「RS-232C/RS-485設定」(48ページ)で設定することができます。

RS-485使用時の注意

- メインメニュー2「RS-232C/RS-485設定」(48ページ)で設定したアドレスと一致しないとHSRは動作しません。
- グループ番号を設定したときは、設定したグループ番号と一致しないとHSRは動作しません。

通常コマンド

特に指定のないコマンドでは、1つのコマンドに対して必ずACK(0AH)またはNAK(0BH)が返されます(ブロードキャスト送信時は除く)。

RS-232C専用コマンド

■ RS-232C TABLE ON (F6H)

RS-232C制御を開始する。

■ RS-232C TABLE OFF (F7H)

RS-232C制御を終了する。

RS-485専用コマンド

■ RS-485 TRANS START (FDH)

RS-485制御を開始する。

■ RS-485 RCV CHK (FEH)

RS-485制御コマンドの受け取り準備ができているかどうかを確認する。

RS-232C/RS-485共通コマンド

■ PLAY (3AH)

再生を開始する。

■ PLAY STOP (3FH)

再生を停止する。

■ SEARCH/ FR/FI (4AH)

- 録画中または停止中にサーチ設定メニューを表示する。
- 再生中にフレーム表示/フィールド表示を切り替える。

■ PAUSE (4FH)

再生中に静止画にする。

■ SHIFT← (53H)
本体シャトルダイヤルの左回しに相当する操作を行う。

■ SHIFT↑ (54H)
本体ジョグダイヤルの左回しに相当する操作を行う。
例外：① 実行中の再生のスピードを上げる。
② メニュー画面で設定値を上げる。

■ TIMER ON/OFF (60H)
タイマー録画の「入」／「切」を切り替える。

■ SHIFT→ (63H)
本体シャトルダイヤルの右回しに相当する操作を行う。

■ SHIFT↓ (64H)
本体ジョグダイヤルの右回しに相当する操作を行う。
例外：① 実行中の再生のスピードを落とす。
② メニュー画面で設定値を下げる。

■ PLAY SPEED UP (65H)
- メニュー画面で設定値を上げる。
- 再生時、再生スピードを上げる。

■ PLAY SPEED DOWN (66H)
- メニュー画面で設定値を下げる。
- 再生時、再生スピードを下げる。

■ SECURITY LOCK ON (69H)
本体のメニュー設定がセキュリティーロック可能な状態の場合、セキュリティーロックを「入」にする（本体のSHUTTLE HOLDボタンの3秒押し操作に相当）。

■ MENU (74H)
- メニューモードにする。
- メニューモード時、メニュー画面を選択する。

■ ZOOM (85H)
- ズーム設定モードに入る。この後：
  1 SHIFT↑(54H)またはSHIFT↓(64H)でズーム領域の水平位置を指定する。
  2 SHIFT→(63H)で水平位置を確定する。
  3 SHIFT↑(54H)またはSHIFT↓(64H)でズーム領域の垂直位置を指定する。
  4 SHIFT→(63H)で垂直位置を確定する。
- ズームを解除する。

■ CHANNEL (8CH)
- 一時停止中にチャンネル選択画面に切り替える。この後：
  1 SHIFT↑(54H)またはSHIFT↓(64H)でチャンネルを選択する。
  2 SHIFT→(63H)でチャンネル選択を確定する。
- チャンネル選択画面を解除する。

■ COPY (8DH)
コピー設定画面の「入」／「切」を切り替える。

■ OSD/EXT (8EH)
- 画面表示データの「入」／「切」、および表示位置を切り替える。
- メニューモードを解除する。

■ ALARM F (ABH)
再生中に、直後のアラームを検索して再生する。

■ ALARM R (ACH)
再生中に、直前のアラームを検索して再生する。

■ REC STOP (CFH)
録画を停止する。

■ CLOCK ADJUST (E0H)
内蔵の時計の分と秒の設定を00に合わせる。
例: 13:30:00から14:29:59の間に送ると、時計は14:00:00になる。

■ MENU RESET (E1H)
表示されているメニュー画面の設定のみ初期値に戻す。

ステータスコマンド

ステータス収集コマンド

■ STATUS SENSE (D7H)

【指定した機器との1対1の通信時のみ有効】

HSRの動作情報を収集する。

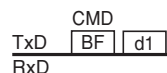
CMD
TxD D7
RxD d1 d2 d3 d4 d5

ビット		意味
d1（第1バイト）	7	00: 再生停止, 01: 静止画, 10: 再生,
	6	11: 各種メニュー
	5	1: アラーム記録領域フル
	4	00: 停止, 01: プリアラーム記録, 10: アラーム記録
	3	11: 使用禁止
	2	1: 通常記録領域フル
	1	00: 記録停止, 01: 通常記録
	0	10: タイマー記録, 11: タイマー記録待機
d2（第2バイト）	7	再生モード　00: 通常, 01: アラーム, 10: 保存
	6	11: 予備
	5	0に固定
	4	1: 正方向, 0: 逆方向
	3	再生スピード　00H～0FH
	2	
	1	
	0	
d3（第3バイト）	7	1: チャンネル選択中
	6	予備
	5	予備
	4	予備
	3	選択入力番号　00H～0FH: 1～16チャンネル
	2	
	1	
	0	
d4（第4バイト）	7	予備
	6	予備
	5	予備
	4	予備
	3	予備
	2	予備
	1	予備
	0	予備
d5（第5バイト）	7	予備
	6	予備
	5	予備
	4	予備
	3	予備
	2	予備
	1	予備
	0	予備

ステータス情報発信コマンド（RS-485専用コマンド）

【ブロードキャスト送信時のみ有効】

HSRに関する情報を随時発信するためのコマンドです。各コマンドに続けて1バイトのデータを送信することができます。ただし、送信可能なデータは、00H～EFHの範囲に限定されます（F0H～FFHは使用禁止）。

■ STATUS LOG-1 (BFH)

ビット	意味
7	1: ワーニング
6	1: 通常記録領域フル
5	1: アラーム記録領域フル
4	予備
3	動作モード　（下記）
2	
1	
0	

ビット 3	2	1	0	動作モード
0	0	0	0	モード変更なし
0	0	0	1	再生停止
0	0	1	0	静止画
0	0	1	1	正方向スロー再生
0	1	0	0	逆方向スロー再生
0	1	0	1	正方向再生
0	1	1	0	逆方向再生
0	1	1	1	正方向送り
1	0	0	0	逆方向送り
1	0	0	1	通常記録停止
1	0	1	0	通常記録
1	0	1	1	タイマー記録

1	1	0	0	タイマー記録待機
1	1	0	1	アラーム記録停止
1	1	1	0	アラーム記録
1	1	1	1	予備

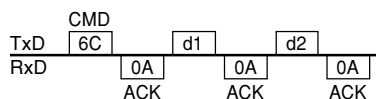
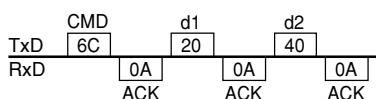
グループ制御コマンド

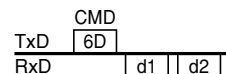
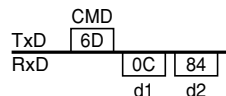
RS-485専用コマンド

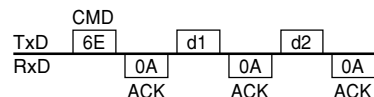
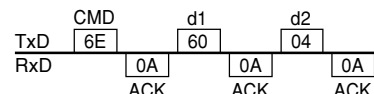
各機器をグループ登録し、グループ制御することができます。
同時に複数のグループの登録・削除が可能です。

- GROUP SETおよびGROUP CLEARでd1、d2ともに00を指定すると、d2受信時にACK(0AH)の代わりにERROR(02H)が返る。
- GROUP SETおよびGROUP CLEARでd1の最下位ビットを1に指定すると、d1受信時にACK(0AH)の代わりにERROR(02H)が返る。

■ GROUP SET (6CH)

指定のグループに登録する。

例: グループ5、グループ14に登録する場合

■ GROUP CHECK (6DH)

現在登録されているグループを確認する。

例: グループ2、3、10、15に登録されている場合

■ GROUP CLEAR (6EH)

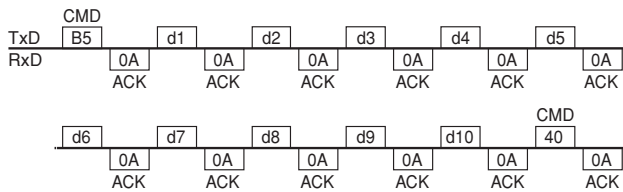
指定のグループを削除する。

例: グループ5、6、10を削除する場合

ビット		意味
d1（第1バイト）	7	GROUP 7
	6	GROUP 6
	5	GROUP 5
	4	GROUP 4
	3	GROUP 3
	2	GROUP 2
	1	GROUP 1
	0	常に0
d2（第2バイト）	7	GROUP 15
	6	GROUP 14
	5	GROUP 13
	4	GROUP 12
	3	GROUP 11
	2	GROUP 10
	1	GROUP 9
	0	GROUP 8

特殊コマンド

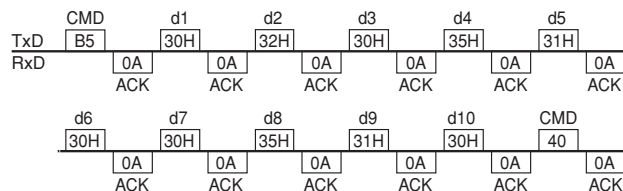
RS-232C専用コマンド

【指定した機器との1対1の通信時のみ有効】

■ T/D SEARCH 4 (B5H)

日時サーチモードにし、サーチする日付を数値データコマンド30H(0)～39H(9)で指定する。

d1: サーチする年の上位（30H～39H）
d2: サーチする年の下位（30H～39H）
d3: サーチする月の上位（30Hまたは31H）
d4: サーチする月の下位（30H～39H）
d5: サーチする日の上位（30H～33H）
d6: サーチする日の下位（30H～39H）
d7: サーチする時の上位（30H～32H）
d8: サーチする時の下位（30H～39H）
d9: サーチする分の上位（30H～35H）
d10: サーチする分の下位（30H～39H）

30H～39H以外のデータを送信すると、ACK（0AH）の代わりにERROR（02H）が返送される。
それぞれのデータに対し、有効範囲外の値を入力した場合は、ENTER（40H）を送信した後、ERROR（02H）が返送される。

例：'02年5月10日5時10分の場合

■ ENTER (40H)

T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力後、データを確定する。

■ CLEAR ERROR (41H)

- T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力中に、直前に入力した数値コマンドのみ取り消す。
- 無効データ入力によりT/D SEARCH 4コマンドがエラーになったとき、直前に入力した無効データのみを取り消してエラーを解除する。

■ CLEAR (56H)

- T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力中に、コマンド全体を取り消す。
- 無効データ入力によりT/D SEARCH 4コマンドがエラーになったとき、T/D SEARCH 4コマンド全体を取り消してエラーを解除する。

RS-232C/RS-485共通コマンド

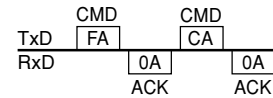
■ REC REQUEST (FAH)

REC コマンドの前に送信する。

■ REC (CAH)

REC REQUEST（FAH）の後に送信して、録画を実行する。

【指定した機器との1対1の通信時】

FAH送信後、ACK(0AH)が返ったらREC(CAH)を送信する。

【ブロードキャスト送信時】

FAH送信後、バスの開放を確認してからREC(CAH)を送信する。

その他の特殊コマンド

RS-485専用コマンド

■ CLOCK ADJUST 2 (E9H)

【ブロードキャスト送信のみ有効】

サブコマンドs1～s3の値で定義されるデータの転送を行う。

s1, s2, s3 = 30H, 30H, 30Hの場合：年月日を転送

s1, s2, s3 = 30H, 30H, 31Hの場合：時分秒を転送

E9Hを送信したデバイスは、バスの開放を待たずに40Hまで連続して送信する。

s1, s2, s3＝30H, 30H, 30Hの場合

d1：年の上位（30H～39H）
d2：年の下位（30H～39H）
d3：月の上位（30Hまたは31H）
d4：月の下位（30H～39H）
d5：日の上位（30H～33H）
d6：日の下位（30H～39H）

例：’05年6月21日

	CMD	s1	s2	s3	d1	d2	d3	d4	d5	d6	CMD
TxD	E9	30	30	30	30	35	30	36	32	31	40
RxD											

s1, s2, s3＝30H, 30H, 31Hの場合

d1：時の上位（30H～32H）
d2：時の下位（30H～39H）
d3：分の上位（30H～35H）
d4：分の下位（30H～39H）
d5：秒の上位（30H～35H）
d6：秒の下位（30H～39H）

例：15時47分30秒

	CMD	s1	s2	s3	d1	d2	d3	d4	d5	d6	CMD
TxD	E9	30	30	31	31	35	34	37	33	30	40
RxD											

特殊コード

■ ERROR (02H)

- T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力中に無効なデータが入力され、HSRがエラー状態になったことを表す。
- RS-485でGROUP SET(6CH)またはGROUP CLEAR(6DH)コマンド実行中に、HSRが無効なデータを受信したことを表す。

コマンドテーブル

上位 下位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0				0	ENTER		TIMER ON/OFF								CLOCK ADJUST	
1				1	CLEAR ERROR										MENU RESET	
2	ERROR			2												
3				3		SHIFT←	SHIFT →									
4				4		SHIFT ↑	SHIFT ↓	MENU								
5				5			RP UP (PLAY SPEED UP)		ZOOM			T/D SEARCH 4				
6				6		CLEAR	RP DOWN (PLAY SPEED DOWN)									RS-232C TABLE ON
7				7										STATUS SENSE		RS-232C TABLE OFF
8				8												
9				9			SECURITY LOCK ON								CLOCK ADJUST 2	
A	ACK			PLAY	SEARCH FR/FI								REC			REC REQUEST
B	NAK										ALARM F					
C							GROUP SET		CHANNEL		ALARM R					
D							GROUP CHECK		COPY							RS-485 TRANS START
E							GROUP CLEAR		OSD/EXIT							RS-485 RCV CHK
F				PLAY STOP	PAUSE							STATUS LOG1	REC STOP			

（薄い網掛け）: RS-232Cのみ

（濃い網掛け）: RS-485のみ

- ブロードキャスト送信時は、BFHコマンドに続けて1バイトのデータを送信することができます。ただし、送信可能なデータは、00H～EFHの範囲に限定されます（F0H～FFHは使用禁止）。
- D7Hに対しては、それぞれのコマンドに規定された連続するデータが返信されます。